

おりであり、この目的を達成するために、それぞれのコースの下に「単元」、そして、その下に必要な「講座」を設けている。派遣前訓練の講座一覧表は別添 2、各コースを構成する単元の目的、講座のシラバス(講座の達成目標、内容を定めたもの)は別添 5 参照のこと。

注 2: コースは派遣前訓練を構成する講座群の大きなまとまりを指し、コースの下に単元、単元の下に最少単位である講座という構成になる。

コース	概要・目的
A. 語学	任地で活動するために必要となる語学の基礎的知識と実践力を身に付ける。
B. 活動手法	現地で活動する際に活用できる手法を学び、学んだ内容をグループワークや所外活動等で実践することで、現地で活用できるようになることを目指す。
C. 健康管理・安全管理	任地での活動の基礎となる体力、健康管理と安全管理に関する知識を身に付ける。
D. 社会的多様性理解・活用力	ボランティアに必要な心構えを身に付けると同時に、任地の事情を理解し、現場に適応できるようになることを目指す。
E. 生活班活動	派遣前訓練での共同生活を通して、ボランティアに必要な態度や心構えを身に付ける。
F. 各種オリエンテーション	訓練所の概要や規則、手続きを理解する。赴任手続き、赴任前に行う各種行事の説明などを行い、赴任の準備を整える。

#### 4. 訓練修了評価

##### (1) JOCV

###### 1) 評価項目

評価は、JICA ボランティア事業の理念に則り、派遣国におけるボランティア活動の実施の可否の観点から、訓練中の能力向上の度合い、必要な知識の習得状況等を語学、ボランティア適性の各項目により評価する。具体的には語学、ボランティア適性、講座テスト、レポートについて、所定のレベルに到達した者を訓練修了とする。

###### 2) 訓練修了評価項目及び基準

評価項目及び修了基準は以下のとおりである。

###### ① 語学

語学の修了基準については、原則としてレベル 7(ボランティアとして派遣するのに必要な基礎力を備えたレベル)以上とする。詳細は、「派遣前語学訓練実施指針」、「最終試験ガイドライン」及び「ポートフォリオ評価ガイドライン」により定める。

評価項目	修了基準
1. 語学	レベル 1～7

### ② ボランティア適性

ボランティアに求められる行動特性をボランティア適性として定めて評価する。評価の項目および JICA ボランティアに求められる能力・適性は以下とおりである。

項目	JICA ボランティアに求められる能力・適性
1.青年海外協力隊精神の理解および実践力	1-1.JICA ボランティアとしての使命感
	1-2.国際協力及びボランティア事業の理解
2.ボランティア基礎力	2-1.主体性
	2-2.協調性
3.ボランティア実務能力	3-1.発信力
	3-2.マネジメント力
4.異文化(他者)理解・適応力	4-1.日本人理解力
	4-2.異文化理解の適応
5.危機管理能力	5-1.健康管理能力
	5-2.安全管理能力

なお、詳細な評価項目、評価配点、評価の手段、評価のポイント、修了基準等の詳細は、別添 3 のとおり。

### ③ 講座テスト

単元	参考講座等
<b>1. JICA ボランティア基礎講座(100点)</b> ・ボランティア事業の概要、事業理念、目標などについて ・ODA の形態、分類、構造、JICA 事業について ・JICA の人間の安全保障(概念、視点など)について ・環境、ジェンダー、HIV/エイズ	「JICA ボランティア事業の理念と目標」「国際関係と日本の国際協力」「JICA 事業概要」、JICA-Net による事前学習など
<b>2. 社会的多様性理解(100点)</b> ・講座「異文化適応概論」「世界の宗教理解」他応用問題	「異文化適応概論」「世界の宗教理解」など

<p><b>3. 健康管理(50点)</b>          ・狂犬病、予防接種、経口感染症、マ          ラリア、デング熱、破傷風、精神衛          生、日本人の疾病動向、生活習慣          病</p> <p><b>4. 安全管理(50点)</b>          ・安全管理(交通安全に対する意識、          安全対策など)について</p>	<p>「感染症」「日本人の疾病動向と健康管理」          (講座)、「感染症の基礎知識と対応」(資料)          など</p> <p>「海外における安全対策(治安・犯罪対          策)」、「海外における交通安全対策」など</p>
<b>修了基準</b>	300点満点の180点以上を合格とする。基準に満たない場合は追試を課す。

(2)SV

講座テストおよびレポートにおいて所定の基準をクリアした場合、訓練修了とする。講座テストの内容は以下のとおり。

単元	参考講座等
<p><b>1.健康管理(50点)</b>          ・狂犬病、予防接種、経口感染症、マ          ラリア、デング熱、破傷風、精神衛          生、日本人の疾病動向、生活習慣病</p> <p><b>2.安全管理(50点)</b>          ・安全管理(交通安全に対する意識、          安全対策など)について</p>	<p>「感染症」「日本人の疾病動向と健康管理」          (講座)、「感染症の基礎知識と対応」(資          料)など</p> <p>「海外における安全対策(治安・犯罪対          策)」、「海外における交通安全対策」など</p>
<b>修了基準</b>	100点満点の60点以上を合格とする。基準に満たない場合は追試を課す。

なお、語学については、入所前に要請で求められる活動使用言語のレベルを既にクリアしていることから修了評価項目とはしない。ただし、研修効果を測定するために訓練修了前に確認テストを行う。

(3)訓練修了判定会議

上記(2)の修了評価に基づき、特定の候補者について、ボランティア適性の観点から派遣前訓練修了の可否を個別に判断する必要がある場合、訓練修了判定会議を開催し、関係者で協議の上、最終的な可否を決定する。訓練修了判定会議は「訓練修了判定会議の実

施について」(平成 24 年 4 月 9 日付決裁 JICA(JV)4-09009)に則り開催する。

#### (4) 訓練記録簿

訓練修了評価結果は、訓練期間中の取組状況(各種委員、課業・朝の集い出欠状況、特記事項)等と合わせて訓練記録簿に記載の上、在外事務所と共有する。訓練記録簿は別添 4 参照のこと。

### 5. 訓練規則

任国での生活・活動に必要な行動規範及びボランティアとして相応しいマナーと品位等の向上並びに訓練の効果、効率的な運営を図るため、訓練規則を別に定める。

### 6. その他

#### (1) 訓練期間中のボランティアの位置付け及び合意書について

訓練期間中の候補者は派遣候補者と位置付け、訓練開始時に訓練所長との間で「派遣前訓練に関する合意書」を締結する。4.の訓練修了評価に基づき、所定のレベルに達し訓練を修了した候補者と青年海外協力隊事務局長との間で「JICA ボランティア派遣に関する合意書」を締結した後、JICA ボランティアとしての身分が確定する。

#### (2) 面談

##### ① JOCV: 目標管理面談

目標管理面談は入所時、中間時、終了時の 3 回実施する。別途定める「ボランティア適性評価表」に記載される JICA ボランティアに求められる能力・適性について、訓練入所時に候補者が自己評価し、それを元に面談を行う。各段階の面談内容は以下のとおり。

**入所時**: 候補者が記入した、候補者が弱点と認識しており、派遣前訓練において特に強化したい能力を自己評価し、これについて目標管理面談員(以下、「面談員」という。業務委託契約の要員が務める)と確認する。面談員は候補者の能力を向上させるための具体的な手法等について適切なアドバイスを行う。

**中間時**: 候補者がこれまでの取り組みを振り返り、弱点の強化の度合いの自己評価を行う。面談員は能力向上の度合いを確認し、必要に応じて計画の修正を促す。

**終了時**: 候補者と面談員の双方で、訓練期間中を通じた能力向上の度合を確認する。併せて、派遣後の能力強化計画について聴き取り、適切なアドバイスを行う。

##### ② SV: 個人面談

個人面談は入所時、終了時の 2 回実施する。各段階の面談内容は以下のとおり。

**入所時**: ボランティア参加の動機と訓練での抱負、訓練や派遣に向けて悩みや不安がないか等を確認する。

**終了時**: 訓練への取り組み状況の総括、派遣に向けての心構えや任国における活動の抱負、訓練所に対する要望等を確認する。

### (3) 在外事務所、支所等への申し送り

日常の訓練生活等を通じ、ボランティア適性等に支障があり、指導が必要と判断された候補者に対し、所長が指導を行い、経過を観察する。観察の結果、訓練未修了の措置に至らない場合、在外事務所、支所等への申し送り事項とする。

以 上

#### 【別添資料】

- 別添1 : 派遣前訓練日程表
- 別添2 : 派遣前訓練講座一覧表
- 別添3 : ボランティア適性評価表
- 別添4-1 : 訓練記録簿(JOCV)
- 別添4-2 : 訓練記録簿(SV)
- 別添5 : 派遣前訓練シラバス

# JOCV派遣前訓練日程

日数	曜日	時間						5日	
			月	火	水	木	金		
1時限	08:45-09:35								
2時限	09:50-10:40								
3時限	10:50-11:40								
4時限	13:00-13:50								
5時限	14:00-14:50								
6時限	15:10-16:00								
7時限	16:10-17:00								
身辺整理	17:00-18:00								
自主計画時間	19:00-20:00								
自主計画時間	20:00-21:00								
自主計画時間	21:00-22:30								
備考									
日数			6	7	8	9	10	11	12
曜日			月	火	水	木	金	土	日
1時限	08:45-09:35		語学授業6	語学授業10	語学授業13	語学授業18	語学授業22	語学授業26	
2時限	09:50-10:40		語学授業7	語学授業11	語学授業14	語学授業19	語学授業23	語学授業27	
3時限	10:50-11:40		語学授業8	語学授業12	語学授業15	語学授業20	語学授業24	ボランティアスピリット 意見交換会①	
4時限	13:00-13:50		語学授業9	貿易ゲーム	語学授業16	語学授業21	語学授業25	スポーツ大会	
5時限	14:00-14:50		処遇・制度オリエンテーション	貿易ゲーム	語学授業17	目標管理(目標管理概論)	避難訓練	スポーツ大会	
6時限	15:10-16:00		処遇・制度オリエンテーション	予防接種/語学自習1	派遣の仕組と支援体制 オリエンテーション	目標管理(目標管理概論)	日本人の疾病動向と健康管理	スポーツ大会	
7時限	16:10-17:00		内田クレペリン検査	予防接種/語学自習2	ボランティアポータルシステム オリエンテーション	目標管理(目標管理概論)	日本人の疾病動向と健康管理	スポーツ大会	
身辺整理	17:00-18:00		班別ミーティング						
自主計画時間	19:00-20:00			1	4	7	10	13	
自主計画時間	20:00-21:00			2	5	8	11	14	
自主計画時間	21:00-22:30			3	6	9	12	15	
備考				個人面談実施日	個人面談実施日	個人面談実施日	個人面談実施日		
日数			13	14	15	16	17	18	19
曜日			月	火	水	木	金	土	日
1時限	08:45-09:35		語学授業28	語学授業33	語学授業37	語学授業41	語学授業46	語学授業51	
2時限	09:50-10:40		語学授業29	語学授業34	語学授業38	語学授業42	語学授業47	語学授業52	
3時限	10:50-11:40		語学授業30	語学授業35	語学授業39	語学授業43	語学授業48	語学授業53	
4時限	13:00-13:50		語学授業31	語学授業36	語学授業40	語学授業44	語学授業49	精神衛生	
5時限	14:00-14:50		語学授業32	公用旅券オリエンテーション	JICA事業概要	語学授業45	語学授業50	精神衛生	
6時限	15:10-16:00		地域別・国別ボランティア派遣 概要	予防接種/語学自習3	体力維持講座	コミュニケーション技法 (オリエンテーション)	国際関係と日本の国際協力	コミュニケーション技法 (コミュニケーションの基礎)	
7時限	16:10-17:00		地域別・国別ボランティア派遣 概要	予防接種/語学自習4	体力維持講座	ボランティアスピリット 意見交換会②	国際関係と日本の国際協力	コミュニケーション技法 (コミュニケーションの基礎)	
身辺整理	17:00-18:00		班別ミーティング						
自主計画時間	19:00-20:00			16	19	22	25	28	
自主計画時間	20:00-21:00			17	20	23	26	29	
自主計画時間	21:00-22:30			18	21	24	27	30	
備考									
日数			20	21	22	23	24	25	26
曜日			月	火	水	木	金	土	日
1時限	08:45-09:35		語学授業54	語学授業59	語学授業62	語学授業67	語学授業71	語学授業75	
2時限	09:50-10:40		語学授業55	語学授業60	語学授業63	語学授業68	語学授業72	語学授業76	
3時限	10:50-11:40		語学授業56	語学授業61	語学授業64	語学授業69	語学授業73	語学授業77	
4時限	13:00-13:50		語学授業57	感染症	語学授業65	語学授業70	語学授業74	救急法	
5時限	14:00-14:50		語学授業58	感染症	語学授業66	海外における交通安全	歯科衛生	救急法	
6時限	15:10-16:00		ソーシャルメディア・非違防止 オリエンテーション	感染症	コミュニケーション技法 (ファシリテーションの基礎)	海外における交通安全	婦人科	救急法	
7時限	16:10-17:00		ソーシャルメディア・非違防止 オリエンテーション	医療者特別講座/予防接種	コミュニケーション技法 (ファシリテーションの基礎)	海外における交通安全 (自動二輪)	婦人科	救急法	
身辺整理	17:00-18:00		班別ミーティング						
自主計画時間	19:00-20:00			31	34	37	40	43	
自主計画時間	20:00-21:00			32	35	38	41	44	
自主計画時間	21:00-22:30			33	36	39	42	45	
備考									
日数			27	28	29	30	31	32	33
曜日			月	火	水	木	金	土	日
1時限	08:45-09:35		語学授業78	語学授業81	語学授業84	語学授業89	語学授業93	語学授業97	
2時限	09:50-10:40		語学授業79	語学授業82	語学授業85	語学授業90	語学授業94	語学授業98	
3時限	10:50-11:40		語学授業80	語学授業83	語学授業86	語学授業91	語学授業95	語学授業99	
4時限	13:00-13:50		調査手法オリエンテーション	世界の宗教理解	語学授業87	語学授業92	語学授業96	OV-DAY任国事情	
5時限	14:00-14:50		調査手法(情報収集)	世界の宗教理解	語学授業88	調査手法 (参加型調査手法)	海外における安全対策	OV-DAY任国事情	
6時限	15:10-16:00		調査手法(情報収集)	予防接種/語学自習5	コミュニケーション技法 (プレゼンテーションの基礎)	調査手法 (参加型調査手法)	海外における安全対策	職種別活動セミナー	
7時限	16:10-17:00		調査手法(情報収集)	予防接種/語学自習6	コミュニケーション技法 (プレゼンテーションの基礎)	調査手法 (参加型調査手法)	海外における安全対策	職種別活動セミナー	
身辺整理	17:00-18:00		班別ミーティング						
自主計画時間	19:00-20:00			46	49	52	55	58	
自主計画時間	20:00-21:00			47	50	53	56	59	
自主計画時間	21:00-22:30			48	51	54	57	60	
備考									
日数			34	35	36	37	38	39	40
曜日			月	火	水	木	金	土	日
1時限	08:45-09:35		語学試験(中間)	語学授業101	語学授業105	語学授業108	語学授業113	語学授業118	
2時限	09:50-10:40		語学試験(中間)	語学授業102	語学授業106	語学授業109	語学授業114	語学授業119	
3時限	10:50-11:40		語学試験(中間)	語学授業103	語学授業107	語学授業110	語学授業115	語学授業120	
4時限	13:00-13:50		語学試験(中間)	語学授業104	コミュニケーション技法 (課題発表)	語学授業111	語学授業116	語学授業121	
5時限	14:00-14:50		語学試験(中間)	語学授業105	コミュニケーション技法 (課題発表)	語学授業112	語学授業117	座禅	
6時限	15:10-16:00		目標管理 (活動管理)	予防接種/語学自習7	コミュニケーション技法 (課題発表)	語学自習9	所外活動オリエンテーション	座禅	
7時限	16:10-17:00		目標管理 (活動管理)	語学自習8	コミュニケーション技法 (課題発表振り返り)	語学自習10	派遣前訓練評価会 (中間時)	語学自習11	
身辺整理	17:00-18:00		班別ミーティング						
自主計画時間	19:00-20:00			61	64	67	70	73	
自主計画時間	20:00-21:00			62	65	68	71	74	
自主計画時間	21:00-22:30			63	66	69	72	75	
備考				個人面談実施日	個人面談実施日	個人面談実施日	個人面談実施日		

week7	日数		41	42	43	44	45	46	47
	曜日		月	火	水	木	金	土	日
	1時限	08:45-09:35	語学授業122	語学授業125	語学授業130	語学授業135	野外訓練	野外訓練	
	2時限	09:50-10:40	語学授業123	語学授業126	語学授業131	語学授業136	野外訓練	野外訓練	
	3時限	10:50-11:40	語学授業124	語学授業127	語学授業132	語学授業137	野外訓練	野外訓練	
	4時限	13:00-13:50	演習BafaBafa	語学授業128	語学授業133	語学授業138	野外訓練	野外訓練	
	5時限	14:00-14:50	演習BafaBafa	語学授業129	語学授業134	語学授業139	野外訓練	野外訓練	
	6時限	15:10-16:00	異文化適応概論	語学自習12	語学自習14	野外訓練準備	野外訓練	野外訓練	
	7時限	16:10-17:00	異文化適応概論	予防接種/語学自習13	野外訓練オリエンテーション	野外訓練準備	野外訓練	野外訓練	
		17:00-18:00	班別ミーティング						
	自主計画時間	19:00-20:00	76	79	82	地球のステージ85	88		
	自主計画時間	20:00-21:00	77	80	83	地球のステージ86	89		
	自主計画時間	21:00-22:30	78	81	84	87	90		
	備考								
week8	日数		48	49	50	51	52	53	54
	曜日		月	火	水	木	金	土	日
	1時限	08:45-09:35	語学授業140	語学授業142	語学授業147	所外活動1	語学授業152	語学授業160	
	2時限	09:50-10:40	語学授業138	語学授業143	語学授業148	所外活動1	語学授業153	語学授業161	
	3時限	10:50-11:40	語学授業139	語学授業144	語学授業149	所外活動1	語学授業154	語学授業162	
	4時限	13:00-13:50	語学授業140	語学授業145	語学授業150	所外活動1	語学授業155	語学交流会	
	5時限	14:00-14:50	語学授業141	語学授業146	語学授業151	所外活動1	語学授業156	語学交流会	
	6時限	15:10-16:00	協力活動手法	語学自習15	任国研究	所外活動1	語学自習17	語学交流会	
	7時限	16:10-17:00	協力活動手法	予防接種/語学自習16	任国研究	所外活動1	語学自習18	語学交流会	
		17:00-18:00	班別ミーティング						
	自主計画時間	19:00-20:00	91	94	97	100	103		
	自主計画時間	20:00-21:00	92	95	98	101	104		
	自主計画時間	21:00-22:30	93	96	99	102	105		
	備考								
week9	日数		55	56	57	58	59	60	61
	曜日		月	火	水	木	金	土	日
	1時限	08:45-09:35	語学授業163	語学授業168	語学授業173	所外活動2	語学授業176	語学授業181	
	2時限	09:50-10:40	語学授業164	語学授業169	語学授業174	所外活動2	語学授業177	語学授業182	
	3時限	10:50-11:40	語学授業165	語学授業170	語学授業175	所外活動2	語学授業178	語学授業183	
	4時限	13:00-13:50	語学授業166	語学授業171	学校交流	所外活動2	語学授業179	語学授業184	
	5時限	14:00-14:50	語学授業167	語学授業172	学校交流	所外活動2	語学授業180	語学授業185	
	6時限	15:10-16:00	任国研究	語学自習19	学校交流	所外活動2	所外活動振り返り	社会還元	
	7時限	16:10-17:00	任国研究	予防接種/語学自習20	学校交流	所外活動2	所外活動振り返り	キャリアアビジョンワークショップ	
		17:00-18:00	班別ミーティング						
	自主計画時間	19:00-20:00	106	109	112	115	118		
	自主計画時間	20:00-21:00	107	110	113	116	119		
	自主計画時間	21:00-22:30	108	111	114	117	120		
	備考								
week10	日数		62	63	64	65	66	67	68
	曜日		月	火	水	木	金	土	日
	1時限	08:45-09:35	語学授業186	語学授業191	語学試験(最終)	特別行事	語学授業196	語学授業201	
	2時限	09:50-10:40	語学授業187	語学授業192	語学試験(最終)	特別行事	語学授業197	語学授業202	
	3時限	10:50-11:40	語学授業188	語学授業193	語学試験(最終)	特別行事	語学授業198	語学授業203	
	4時限	13:00-13:50	語学授業189	語学授業194	語学試験(最終)	特別行事	語学授業199	語学授業204	
	5時限	14:00-14:50	語学授業190	語学授業195	語学試験(最終)	特別行事	語学授業200	語学授業205	
	6時限	15:10-16:00	講座テスト	異文化適応の事例研究	派遣前訓練評価会(終了時)	特別行事	目標管理(振り返り・評価)	体カテスト②	
	7時限	16:10-17:00	講座テスト	予防接種/語学自習21	特別行事 オリエンテーション	特別行事	目標管理(振り返り・評価)	体カテスト②	
		17:00-18:00	班別ミーティング						
	自主計画時間	19:00-20:00	121	124	127	130	133		
	自主計画時間	20:00-21:00	122	125	128	131	134		
	自主計画時間	21:00-22:30	123	126	129	132	135		
	備考		個人面談実施日	個人面談実施日	個人面談実施日	個人面談実施日			
week11	No.		69	70					
	曜		月	火					
	1時限	08:45-09:35	福利厚生・共済会 オリエンテーション	居室点検/表敬訪問オリエンテーショ ン					
	2時限	09:50-10:40	赴任前オリエンテーション	所長講話②					
	3時限	10:50-11:40	派遣に関する合意書の説明	修了式					
	4時限	13:00-13:50	旅行会社オリエンテーション	修了式					
	5時限	14:00-14:50	派遣前健康管理 オリエンテーション	社行会					
	6時限	15:10-16:00	青遺海の会						
	7時限	16:10-17:00	外務省講話						
		17:00-18:00	班別ミーティング						
	自主計画時間	19:00-20:00							
	自主計画時間	20:00-21:00							
	自主計画時間	21:00-22:30							
	備考								

### SV派遣前訓練日程

week	日数	時間						5 日	
	曜日		月	火	1 水	2 木	3 金		4 土
week1	1時限	08:45-09:35					所長講話①	語学授業1	語学授業3
	2時限	09:50-10:40	<div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">           語学オリエンテーション 1コマ            語学授業 103コマ            語学自習 25コマ            クラス編成テスト 2コマ            語学確認テスト 2コマ            合計 135コマ         </div>				派遣前訓練 オリエンテーション②	語学授業2	語学授業4
	3時限	10:50-11:40					語学オリエンテーション	派遣前訓練 オリエンテーション④	語学授業5
	4時限	13:00-13:50						JICAボランティア事業の 理念と目標(局長講話)	語学授業6
	5時限	14:00-14:50				受付	クラス編成テスト	JICAボランティア事業の 理念と目標(局長講話)	語学自習1
	6時限	15:10-16:00				入所式	クラス編成テスト	自己紹介	語学自習2
	7時限	16:10-17:00				派遣前訓練に関する合意書の説明	診療室オリエンテーション	自己紹介	語学自習3
		17:00-18:00				派遣前訓練オリエンテーション①	派遣前訓練 オリエンテーション③	自己紹介	
		19:00-20:00			班別ミーティング				
		20:00-21:00							
	21:00-22:30								
week2	日数		6	7	8	9	10	11	12
	曜日		月	火	水	木	金	土	日
	1時限	08:45-09:35	語学授業7	語学授業12	語学授業15	語学授業19	語学授業24	語学授業28	
	2時限	09:50-10:40	語学授業8	語学授業13	語学授業16	語学授業20	語学授業25	語学授業29	
	3時限	10:50-11:40	語学授業9	語学授業14	語学授業17	語学授業21	語学授業26	ボランティアスピリット意見 交換会①	
	4時限	13:00-13:50	語学授業10	貿易ゲーム	語学授業18	語学授業22	語学授業27	スポーツ大会	
	5時限	14:00-14:50	語学授業11	貿易ゲーム	語学授業19	処遇・制度オリエンテーション	避難訓練	スポーツ大会	
	6時限	15:10-16:00	語学自習4	予防接種/語学自習6	派遣の仕組と支援体制 オリエンテーション	処遇・制度オリエンテーション	日本人の疾病動向と健康管理	スポーツ大会	
	7時限	16:10-17:00	語学自習5	語学自習7	ポータルシステム オリエンテーション	語学自習8	日本人の疾病動向と健康管理	スポーツ大会	
		17:00-18:00		班別ミーティング					
	19:00-20:00		1	4	7	10	13		
	20:00-21:00		2	5	8	11	14		
	21:00-22:30		3	6	9	12	15		
	備考								
week3	日数		13	14	15	16	17	18	19
	曜日		月	火	水	木	金	土	日
	1時限	08:45-09:35	語学授業30	語学授業35	語学授業39	語学授業44	語学授業49	語学授業54	
	2時限	09:50-10:40	語学授業31	語学授業36	語学授業40	語学授業45	語学授業50	語学授業55	
	3時限	10:50-11:40	語学授業32	語学授業37	語学授業41	語学授業46	語学授業51	語学授業56	
	4時限	13:00-13:50	語学授業33	語学授業38	語学授業42	語学授業47	語学授業52	精神衛生	
	5時限	14:00-14:50	語学授業34	公用旅券オリエンテーション	語学授業43	語学授業48	語学授業53	精神衛生	
	6時限	15:10-16:00	地域別・国別ボランティア 派遣概要	予防接種/語学自習9	体力維持講座	語学自習11	語学自習12	ボランティア活動の実際①	
		16:10-17:00	地域別・国別ボランティア 派遣概要	予防接種/語学自習10	体力維持講座	ボランティアスピリット意見 交換会②	語学自習13	ボランティア活動の実際①	
		17:00-18:00		班別ミーティング					
	19:00-20:00		16	19	22	25	28		
	20:00-21:00		17	20	23	26	29		
	21:00-22:30		18	21	24	27	30		
	備考								
week4	日数		20	21	22	23	24	25	26
	曜日		月	火	水	木	金	土	日
	1時限	08:45-09:35	語学授業57	語学授業62	語学授業65	語学授業70	語学授業74	語学授業78	
	2時限	09:50-10:40	語学授業58	語学授業63	語学授業66	語学授業71	語学授業75	語学授業79	
	3時限	10:50-11:40	語学授業59	語学授業64	語学授業67	語学授業72	語学授業76	語学授業80	
	4時限	13:00-13:50	語学授業60	感染症	語学授業68	語学授業73	語学授業77	救急法	
	5時限	14:00-14:50	語学授業61	感染症	語学授業69	海外における交通安全	歯科衛生	救急法	
	6時限	15:10-16:00	ソーシャルメディア・非違防止 オリエンテーション	感染症	ボランティア活動の実際②	海外における交通安全	婦人科	救急法	
	7時限	16:10-17:00	ソーシャルメディア・非違防止 オリエンテーション	医療者特別講座/予防接種	ボランティア活動の実際②	語学自習14	婦人科	救急法	
		17:00-18:00		班別ミーティング					
	19:00-20:00		31	34	37	40	43		
	20:00-21:00		32	35	38	41	44		
	21:00-22:30		33	36	39	42	45		
	備考								
week5	日数		27	28	29	30	31	32	33
	曜日		月	火	水	木	金	土	日
	1時限	08:45-09:35	語学授業81	語学授業86	語学授業91	語学授業96	語学確認テスト	語学授業101	
	2時限	09:50-10:40	語学授業82	語学授業87	語学授業92	語学授業97	語学確認テスト	語学授業102	
	3時限	10:50-11:40	語学授業83	語学授業88	語学授業93	語学授業98	講座テスト	語学授業103	
	4時限	13:00-13:50	語学授業84	語学授業89	語学授業94	語学授業99	語学自習23	OV-DAY任国事情	
	5時限	14:00-14:50	語学授業85	語学授業90	語学授業95	語学授業100	海外における安全対策	OV-DAY任国事情	
	6時限	15:10-16:00	語学自習15	予防接種/語学自習17	語学自習19	語学自習21	海外における安全対策	職種別活動セミナー	
	7時限	16:10-17:00	語学自習16	語学自習18	語学自習20	語学自習22	海外における安全対策	職種別活動セミナー	
		17:00-18:00		班別ミーティング					
	19:00-20:00		46	49	52	55	58		
	20:00-21:00		47	50	53	56	59		
	21:00-22:30		48	51	54	57	60		
	備考			個人面談実施日	個人面談実施日	個人面談実施日	個人面談実施日		
week6	日数		34	35					
	曜日		月	火					
	1時限	08:45-09:35	語学自習24	居室点検/表敬訪問オリエン テーション					
	2時限	09:50-10:40	語学自習25	所長講話②					
	3時限	10:50-11:40	赴任前オリエンテーション	修了式					
	4時限	13:00-13:50	福利厚生・共済会 オリエンテーション	壮行会					
	5時限	14:00-14:50	派遣前健康管理 オリエンテーション						
	6時限	15:10-16:00	旅行会社オリエンテーション						
	7時限	16:10-17:00	派遣に関する合意書の説明						
		17:00-18:00		班別ミーティング					
	19:00-20:00								
	20:00-21:00								
	21:00-22:30								
	備考								



## 派遣前訓練 コース・単元・講座一覧(目安であり、状況に応じて微調整は可能)

コース	単元	講座	JOCV		SV		内容	講師(注)	
			コマ数 (課業内)	コマ数 (課業外)	コマ数 (課業内)	コマ数 (課業外)			
A 語学	A-1	自主計画時間を使った自習		95		59	語学自習		
	A-2	語学オリエンテーション	1		1		語学学習の進め方、留意点について開始時、中間時、終了時に3回実施		
	A-3	語学授業	205		103		語学クラスごとの授業		
	A-4	語学試験(クラス編成・中間・最終)	12		4		試験		
	A-5	語学自習	21		25		語学自習		
	A-6	語学交流会	4				学習言語を使ったゲストとのコミュニケーション		
		コマ数小計	243	95	133	59			
B 活動手法	B-1	自主計画時間を使った課題発表の準備		15			グループごとの準備活動		
	B-2	目標管理	B-2-1	ボランティア活動の流れ	2			2年間の活動イメージとコンピテンシーの自己評価	●
			B-2-2	目標管理概論	3			目標シートの考え方、計画～評価までの流れ	●
			B-2-3	活動管理	2			詳細計画の策定と管理方法	●
			B-2-4	振り返り・評価	2				
			B-2-5	個人面談		1		1	担当スタッフとの面談
	B-3	コミュニケーション技法	B-3-1	コミュニケーション技法オリエンテーション	1			コミュニケーション技法の構成、グループ分け	●
			B-3-2	コミュニケーションの基礎	2			コミュニケーションの構造	●
			B-3-3	ファシリテーションの基礎	2			ファシリテーションのコツと演習	●
			B-3-4	プレゼンテーションの基礎	2			Powerpointスライド作成のポイント	●
			B-3-5	課題発表・振り返り	4	2		課題発表・プレゼンテーション(日本について)	●
	B-4	調査手法	B-4-1	調査手法オリエンテーション	1			調査手法の構成、フィールドワーク	●
			B-4-2	情報収集	3			情報収集のツール	●
			B-4-3	参加型調査手法	3			視覚ツールの使い方	●
	B-5	適正技術	B-5-1	協力活動手法				WBT講座	
B-5-2			協力活動手法	2			技術顧問による講座	●	
B-5-3			職種別活動セミナー	2	2	2	OVからの情報収集(一部職種は各OV会による実施あり、課業外)	●	
		コマ数小計	31	20	2	1			
C 健康管理・安全管理	C-1	自主計画時間を使った体力増強活動		(30)			スポーツなどの自主的な体力増強活動 ※朝の時間		
	C-2	体力増強	C-2-1	体力テスト①②	4			体力測定テスト	
			C-2-2	体力維持講座	2		2	体力維持の重要性、ラジオ体操	●
			C-2-3	スポーツ大会	4		4		
	C-3	健康管理	C-3-1	診療室オリエンテーション	1		1	訓練中の健康管理、診療室利用、予防接種	●
			C-3-2	派遣前健康管理オリエンテーション	1		1	任地での健康管理	●
			C-3-3	救急法	4		4	応急措置の方法	●
			C-3-4	婦人科	2		2	女性が罹りやすい病気の基礎知識	●
			C-3-5	歯科衛生	1		1	口腔管理の重要性	●
			C-3-6	日本人の疾病動向と健康管理	2		2	生活習慣病の予防と対策	●
			C-3-7	精神衛生	2		2	ストレス対処法	●
			C-3-8	感染症	3		3	感染症の予防と対策	●
			C-3-9	座禅	2				●
			C-3-10	医療者特別講座	1		1	医療隊員の活動現場における針刺し事故の対処法	●
	C-4	安全管理	C-4-1	海外における安全対策	3		3	日本と任国の治安状況の違い	●
			C-4-2	海外における交通安全	2		2	交通事故防止、交通安全	●
			C-4-3	海外における交通安全(自動二輪)(対象者のみ)	1			二輪貸与者向けの交通安全	●
			C-4-4	自動二輪不整地走行練習		(10)			二輪貸与者向け、不整地走行練習
C-4-5			青遺海の会による講話	1				留守家族の気持ち	●
C-4-6			避難訓練	1		1			
C-5	講座テスト	2			1	健康管理、WBTの理解度を確認			
		コマ数小計	39	0	30	0			
D 社会的多様性理解・活用力	D-1	自主計画時間を使った自主研修講座の準備・実施		20			自主研修講座の企画・準備・実施		
	D-2	JICAボランティア基礎講座	D-2-1	外務省講話	1			日本のODAと公人としてのJICAボランティア	
			D-2-2	戦後日本の国際協力の歩み				WBT講座	
			D-2-3	国際関係と日本の国際協力	2			援助の潮流と日本のODAの基本政策	●
			D-2-4	JICA事業概要	1			JICA事業の紹介	●
			D-2-5	青年海外協力隊の歩みと理念				WBT講座	
			D-2-6	JICAボランティア事業の理念と目標(局長講話)	2		2	ボランティアに必要な心構え	●
			D-2-7	所長講話①②	2		2	ボランティアに必要な心構え	●
			D-2-8	地域別・国別ボランティア派遣概要	2		2	任国におけるJICA事業の概要	●
			D-2-9	ボランティアスピリット意見交換会①②	2		2	C/Pの感謝の声や震災でのOVの活動紹介	●
			D-2-10	エイズ基礎講座				インターネット学習(JICA-Net)	
			D-2-11	ジェンダーと開発				インターネット学習(JICA-Net)	
			D-2-12	環境と開発				インターネット学習(JICA-Net)	
	D-3	社会的多様性理解	D-3-1	貿易ゲーム	2		2	世界の実情を体感する	●
			D-3-2	任国研究	4			任国の研究・報告書作成(グループワーク)	
			D-3-3	世界の宗教事情				WBT	
			D-3-4	世界の宗教理解	2			世界の宗教について理解を深める	●
			D-3-5	演習 Bafa Bafa	2			異文化を体感する	●
			D-3-6	異文化適応概論	2			異文化の中で活動する上の基礎知識を学ぶ	●
			D-3-7	異文化適応の事例研究	1		0	ある隊員の活動事例を基にしたグループ討論	●
D-3-8			地球のステージ		2			世界で起こっている出来事についてのコンサート(JOCV参加必須の特別行事)	
D-4	社会的多様性活用力	D-3-9	内田クレベリン検査	1			内田クレベリン検査		
		D-4-1	OV-DAY 任国事情	2		2	活動や生活などの任国の情報提供	●	
		D-4-2	学校交流	4			地域社会との交流		
		D-4-3	所外活動オリエンテーション	1				●	
		D-4-4	所外活動①②・振り返り	16			所外活動における調査の実施と振り返り	●	
		D-4-5	ボランティア活動の実践①②(SVのみ)			4		●	
		D-5-1	ボランティア体験と社会還元					●	
D-5	帰国後の進路と社会還元	D-5-2	社会還元	1			OVを招へいして、帰国後の進路、活動について紹介	●	
		D-5-3	キャリアビジョンワークショップ	1			自身のキャリア設計を学ぶ	●	
			コマ数小計	51	22	16	0		
E 生活班活動	E-1	自主計画時間を使った生活班ミーティング		(10)			野外訓練や生活一般に関するミーティング		
	E-2	課業時間を使った野外訓練準備	2				野外訓練の準備		
	E-3	野外訓練オリエンテーション	1				野外訓練の流れ、留意点	●	
	E-4	野外訓練	14				水、電気がない状況での野外生活	●	
		コマ数小計	17	0	0	0			
F 各種オリエンテーション	F-1	式典	F-1-1	受付・入所式	2		2		
			F-1-2	修了式・壮行会	3		2		
	F-2	派遣前訓練	F-2-1	派遣前訓練に関する合意書の説明	1		1	合意書の説明	●
			F-2-2	派遣前訓練オリエンテーション(注1) ①生活①、②訓練の目標、ボランティア適性及び評価の視点①、 ③講座①、④関係先紹介①	4		4	訓練全体の構成、コンピテンシー、評価の視点	●
			F-2-3	自己紹介	2		2	自己紹介	
			F-2-4	派遣前訓練評価会(中間、終了時)	2			派遣前訓練の評価会	●
	F-3	制度・ガイドライン	F-3-1	派遣の仕組みと支援体制オリエンテーション	1		1	派遣の仕組みと支援体制	●
			F-3-2	処遇・制度オリエンテーション	2		2	ボランティアの処遇や制度	●
			F-3-3	福利厚生・共済会オリエンテーション	1		1	福利厚生、共済会	●
			F-3-4	ボランティアポータルシステムオリエンテーション	1		1	ポータルシステム	●
			F-3-5	ソーシャルメディア・非違防止オリエンテーション	2		2		●
	F-4	派遣関連	F-4-1	公用旅券オリエンテーション	1		1	公用旅券	●
			F-4-2	赴任前オリエンテーション	1		1	公用旅券にかかる注意喚起、赴任旅費の支給、諸手続き	●
			F-4-3	旅行会社オリエンテーション	1		1	出国当日の日程、集合場所、持ち込み荷物など	●
	F-5	特別行事・表敬訪問	F-4-4	派遣に関する合意書の説明	1		1	合意書の説明	●
F-5-1			特別行事オリエンテーション	1			皇太子御接見の注意事項	●	
F-5-2			特別行事	7			皇太子御接見		
F-5-3	表敬訪問オリエンテーション	1		1	地方自治体への表敬訪問の意義	●			
		コマ数小計	34	0	23	0			
		総合計	415	137	204	60			

(注)講師はモデレーター、ファシリテーターを務める場合も含む

# ボランティア適性評価基準表

カテゴリー	JICAボランティアに求められる能力・適性	能力・適性の具体的内容	評価の手段(注)	評価のポイント・視点	評価者	評価配点	最低合格点
1.青年海外協力隊精神の理解および実践力	1-1.JICAボランティアとしての使命感	活動を通じて他者のために何らかの役にたちたいという意欲。 種々の困難に遭遇しても、最後までやり抜く持続する情熱。 JICAボランティアとしての公人意識。	事前学習の取組み状況 訓練・生活全般 所外活動、野外訓練、グループワーク、自主講座への取組姿勢	JICAボランティア事業の理念に沿った目的意識を持っている。 公人として自覚を持った行動ができる。 訓練規則を遵守できる。	Eコースリーダー 班担当	5	6
	1-2.国際協力及びボランティア事業の理解	国際協力の歴史や現状、日本のODAの歴史と現状及びJICA事業・ボランティア事業の理解。	事前学習の取組み状況 講座テスト及びレポート結果	日本のODAの歴史や現状(特にJICAボランティア事業)について理解できている。	Dコースリーダー 班担当	5	
2.ボランティア基礎力	2-1.主体性	様々な問題を自身の問題として捉え、自ら主体的に取り組む意欲、力。 相手や周囲の人々にも働きかけを行う姿勢、実践力。	グループワーク(日本について、任国研究)のプレゼンテーション及び成果品、所外活動、野外訓練、自主講座への取組姿勢 委員会活動への取組み姿勢	訓練全般に積極的に取り組んでいる。 自己の言動に対する説明・結果責任を負うことができる。 各種委員会活動や自主講座等にも積極的に取り組んでいる。	Eコースリーダー 班担当	5	6
	2-2.協調性	チーム(コミュニティ)のルールを遵守し、自身の言動が周囲へ及ぼす影響を理解できる力。 周囲と協調して行動しようとする意志、意欲、実践力。 円滑な人間関係を構築できる力(コミュニケーション能力)。	グループワーク、所外活動、スポーツ大会、野外訓練、生活班活動への取組姿勢	他者を受け入れ、許容する度量がある。 共同生活で他者に迷惑を掛けず、他者を尊重した行動ができる。 グループワークにおいてチームワークを尊重した行動ができる。		5	
3.ボランティア実務能力	3-1.発信力	説明内容を論理的に組み立て相手に分かりやすく説明・提案し、自己の意見を理解させる表現力、説得力。 適切な企画書・レポートを書く力。	グループワークのプレゼンテーション及び成果品 語学授業のプレゼンテーション 自主講座の企画書、提出レポートなど	事実や論拠、仮説を基に、自らの考えを他者に分かり易く説明できる。 伝えたいメッセージを、優先順位を付けて整理できる。 効果的な表現方法とコミュニケーション手法を駆使することができる。 企画書やレポートなどの文書作成能力が身についている。	Bコースリーダー 班担当	5	6
	3-2.マネジメント力	課題を発見するために必要な知識、技能。 適切な目標を設定し、ロードマップを作成する能力。 実施において進捗管理、振り返り、評価、軌道修正する能力。	目標管理シート作成及び達成状況 自主講座等の運営状況 委員会活動等の実施状況	問題発掘能力がある。 問題解決に向け適切な実行計画を策定し、着実に実行できる。 活動の成果を客観的に評価し、つねに改善を心掛けている。		5	
4.異文化(他者)理解・適応力	4-1.異文化理解と適応	異文化社会における行動様式(生活、慣習、宗教、ルール等)を観察、理解、尊重する姿勢。	事前学習の取組み状況 講座テスト及びレポート結果 グループワーク(日本について、任国研究)のプレゼンテーション及び成果品	異文化理解について基礎知識を持っている。 異文化に対し柔軟な対応、思考ができる。	Dコースリーダー 班担当	5	6
	4-2.日本(人)理解	日本の代表として、日本の歴史・社会・文化を紹介できる知識、愛国心。		日本人であることに誇りを持ち、日本(の社会、文化、歴史など)について説明ができる。		5	
5.危機管理能力	5-1.健康管理能力	日本とは異なる自然・生活環境の下でも健康を維持する自己管理能力。 疾病とその予防知識。 ストレスマネジメント力及び基礎体力。	体力測定、訓練中の運動への取組み 課業出欠状況、 訓練中の健康管理への取組み姿勢 講座テスト及びレポート結果	訓練期間を通して健康及び体力の維持・増進に積極的に取り組んでいる。 任地での自己管理方法やJICAの健康管理に対する支援内容を理解している。 困難な問題に直面した時のストレスマネジメントができる。	診療室 Cコースリーダー 班担当	5	6
	5-2.安全管理能力	日本とは異なる交通事情を理解し、交通事故を予防する知識。 防犯対策、テロ対策等の安全管理知識。 安全対策に対する高い意識を維持し、実践する力。	講座テスト及びレポート結果 訓練中の安全管理(居室の施錠、居所の明確化、IDの着用)への取組み状況	海外における交通事情を知り、交通安全の知識が身に付いている。 様々な局面における(活動中の住居、日常生活)危機回避の方法が身に付いている。	Cコースリーダー 班担当	5	
						50	30
6.語学力	5-1.語学コミュニケーション力	任国・配属先での生活・活動に必要な語学力	中間テスト、語学最終試験 語学学習取組姿勢 語学ポートフォリオ、TR	現地における実際の生活や活動に必要な語学力(reading、writing、listening、speaking)を習得している。 訓練期間を通して語学学習に積極的に取り組んでいる。	語学講師 LTS	Level1~8	7以上

## 評価に関する留意事項

\* 評価配点は各項目5段階評価で、5:非常によくできる 4:標準、3:更に改善の余地はあるが派遣に問題ない 2:派遣するためには改善の余地が大いにある 1:問題があり派遣できない  
(注)訓練全般への取組姿勢は全ての項目において評価の手段となることから、それ以外で特記すべき評価の手段を記載した。

\* 「1」と判断した具体的な事項を「所見」として記載。「1」の判定が一つでもある場合は、派遣前訓練修了判定会議にの検討対象とする。「所見」には必要に応じて、非常に優れたケースも記載。  
\* 各カテゴリー・項目の最低合格ラインを下回る配点の場合は、訓練修了の可否につき、派遣前訓練修了判定会議において検討協議する。  
\* これら各カテゴリー・項目の評点を参考に派遣にかかる総合評価としては「A:優良レベル」、「B:可(問題なし)レベル」、「C:追試・再提出があった者」、「D:不可(問題あり)レベル」にて可否を判断。

## 平成〇〇年度〇次隊訓練記録簿(派遣前訓練、JOCV向け)

秘

(作成年月日:平成〇〇年〇月〇日)

## 1. ボランティア基本データ

V番号	派遣国	氏名	フリガナ	性	歳	生年月日	職種/指導科目	出身県	婚	身分措置

## 2. 選考時の記録

人物面接	技術筆記	技術面接 (JOCVのみ)	語学筆記	募集時期	JICA事業参加歴

## 3. 目標達成状況

## (1) 語学

学習言語	
中間テスト	
最終テスト	
評価(注1)	

(注1)1~7Levelまで合格

## (2) 講座テスト・提出物など

講座テスト	〇〇点
所外活動	〇〇ダイケアセンター(例)
レポート1	A B C D
レポート2	A B C D
レポート3	A B C D
レポート4	A B C D

## (3) ボランティア適性

		評点	合計
1. 青年海外協力隊精神の理解・実践力	1-1. JICAボランティアとしての使命感		0
	1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解		
2. ボランティア基礎力	2-1. 主体性		0
	2-2. 協調性		
3. ボランティア実務能力	3-1. 発信力		0
	3-2. マネージメント力		
4. 異文化(他者)理解・適応力	4-1. 異文化理解と適応		0
	4-2. 日本(人)理解		
5. 危機管理能力	5-1. 健康管理能力		0
	5-2. 安全管理能力		
評価(注2)	〇〇点/50点	0	0
特筆する成果等			

(注2) 10項目×5点で50点満点の30点以上を合格とする。但し、各カテゴリーごとに、一つでも最低合格点に達しない場合は訓練未修了となる。

## 4. 参考情報

各種委員会等	講座(含む自主講座)	課業欠席(コマ)	朝の集い欠席(回数)

## 5. 所見

--

【協力隊事務局 記入欄】

総合判定	▼特記事項(健康条件付き終了等の特別な場合につき記載)

平成〇〇年度〇次隊訓練記録簿(派遣前訓練、SV向け)

秘

(作成年月日:平成〇〇年〇月〇日)

1. ボランティア基本データ

V番号	派遣国	氏名	フリガナ	性	歳	生年月日	職種/指導科目	出身県	婚	身分措置

2. 選考時の記録

人物面接	技術筆記	語学筆記	募集時期	JICA事業参加歴

3. 目標達成状況

(1) 語学

学習言語	
確認テスト(注1)	〇〇/100点

(注1)確認テストの点数を以て、訓練修了の可否は判断しない。

(2) 講座テスト及びレポート

講座テスト(注2)	〇〇点/300点
レポート1	A B C D
レポート2	A B C D
レポート3	A B C D

(注2)100点満点の60点以上を合格とする。基準に満たない場合は追試を課す。

4. 参考情報

各種委員会等	講座(含む自主講座)	課業欠席(コマ)	朝の集い欠席(回数)

5. 所見

【協力隊事務局 記入欄】

総合判定

▼特記事項 (健康条件付き終了等の特別な場合につき記載)

# 派遣前訓練シラバス

# JICA ボランティアに求められる適性及び知識

項目	JICA ボランティアに求められる能力・適性	内容
1. 青年海外協力隊精神の理解および実践力	1-1. JICA ボランティアとしての使命感	JICA ボランティア事業の理念、ボランティアによる協力の意義を把握し、公人としての意識を身に付ける。
	1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解	JICA の事業概要を把握し、ボランティア事業の位置付けを理解した上で、ボランティアとしての心構え、ボランティアに必要な要素とは何かを考える。
2. ボランティア基礎力	2-1. 主体性	物事に積極的に取り組む意欲がある。
	2-2. 協調性	社会のルールや人との約束を守り、周囲と円滑な人間関係を構築し、協調して行動する。
3. ボランティア実務能力	3-1. 発信力	自分の考えを分かりやすく伝え、相手の納得を得られる説得力・折衝力がある。
	3-2. マネージメント力	必要な情報を収集・整理・分析し、課題を明らかにすると同時に関係者間で共有化を図り共に考える。
4. 異文化（他者）理解・適応力	4-1. 日本人理解力	日本人であることに誇りを持ち、日本の社会、文化、歴史等について説明できる。
	4-2. 異文化理解の適応	任地での生活や協力活動を円滑に行うために異文化をどのように理解し、自分を適応させたらよいかを学ぶ。
5. 危機管理能力	5-1. 健康管理能力	過去の事例を踏まえ、ボランティアの任国における安全対策を学ぶとともに、異文化不適応に起因する精神衛生等についても理解を促進する。
	5-2. 安全管理能力	過去の事例を踏まえ、凶悪一般犯罪を中心に、政情不安、それに伴う緊急避難、薬物犯罪の傾向と対策、交通事故の主な要因の一つである交通事情や運転マナー等を学習する。

# 派遣前訓練における「講座」について

## 講座の分類

派遣前訓練の目的に則り、訓練は 6 つのコースに分類される。そのうち、この資料で扱うのは A. 語学講座を除く 5 コースである。派遣前訓練の講座を通じて、前頁に記載した、JICA ボランティアに求められる能力、適性を強化し、派遣期間中も継続して強化する。各々のコース、単元、講座の詳しい説明は、後述の「コース・単元・講座一覧」に示している。

## 講座/単元の目的

コース	単元	目的
A 語学	語学授業	現地における実際の生活や活動に必要な語学力を身につけるため、語学授業にて活動に即応できる実践的な能力を養う。所外での学習や、学習言語で専門分野・時事問題等を討議する等、レベルに合わせた内容で実施する。
	語学交流会	派遣予定国及び近隣諸国の人々との交流および専門分野等のプレゼンテーション等を実施する。
B 活動手法	目標管理	派遣 6 か月後に作成する目標管理シートの作成、進捗の管理の仕方、振り返りの方法を実際に経験しながら学ぶ。
	コミュニケーション技法	ボランティアの活動に必須であるコミュニケーションスキルを、知識と職種・分野を基本としたグループ別の課題発表の実践を通して身につける。
	調査手法	現状の把握やニーズ調査などに活用可能な調査手法について学ぶ。
C 健康管理・安全管理	体力増強	任国での活動の基礎となる体力をつけ、それを維持・管理するための方法を学ぶ。
	健康管理	任国で必要となる健康管理に関する知識を身につける。
	安全管理	任国で必要となる安全に関する知識を身につける。
D 社会的多様性理解・活用力	自主計画時間を使った自主研修講座の準備・実施	候補者が自主的に講座を提案する場を設けることで、ボランティアとしての自発性や積極性の醸成、企画・実施・評価の能力強化を目指す。
	JICA ボランティア基礎講座	ボランティアに必要な心構えを身につけると同時に、任国の事情を理解し、現場に対応できるようになる。
	社会的多様性理解	世界の实情、任国の事情、宗教の他、自身の特性などについて理解を深め、異文化の中で活動する上での知識を身につける。
	社会的多様性活用力	地域社会との交流の中で、どのように人々と関わり合い、相手の役に立てるか、実施を通じて考える。
	帰国後の進路と社会還元	帰国後の進路やキャリア設計の他、JICA ボランティア経験をどのように社会還元していくか、学ぶ。
E 生活班活動		派遣前訓練での共同生活、野外訓練等を通して、ボランティアに必要な態度や能力を身につける。
F 各種オリエンテーション		派遣前訓練の概要や規則、手続きを理解する。公用旅券申請などの手続き、赴任前に行う事項の説明などを行い、赴任の準備を整える。

## 講座受講時の諸注意

【 時間厳守 】	・ 講座開始 5 分前には着席し、講義を聴講できるよう準備すること。
【 座 席 】	・ 講堂での必修講座の場合、座席表の通り着席すること。
【 服 装 】	・ 講師に対して失礼のないよう、T.P.O.をふまえた服装とすること。
【 飲 食 】	・ 食べ物の持ち込みは不可とする。飲み物の持ち込みは、蓋付きで割れない容器（ペットボトルなど）を利用すること。
【 パソコン 】	・ 打鍵音が響くため、講義中のパソコン使用は不可とする。
【 携帯電話 】	・ 講座中は携帯電話の電源を OFF にすること。
【 その他 】	・ 質問をする際は、挙手して講師の指名を得てから起立すること。その後、派遣国、職種／指導科目、氏名の順に名乗ってから質問内容を述べること。 ・ 配布されたアンケート用紙は、講座終了後、講堂出入口に設置する回収箱に提出すること。 ・ 講座に関係のない内職等は厳に禁止する。



# 講座資料の見方

**講座の達成目標**…この講座の履修により達成すべき目標を簡潔にまとめたもの。

**コース-単元-講座の名称**

**日時、実施場所など**

C-3-5 健康管理・安全管理講座-健康管理-歯科衛生

●月●日(●)  
15:10~16:00  
●●ホール

達成目標

任国における口腔衛生の重要性と歯科疾患予防の知識を身につける

**履修要件**…各対象者の○必修/☆指定者必修/△選択/□自由参加/×対象外を示している。

**講座の内容**

任国での歯科相談の内容としては、詰め物の脱落、虫歯、知覚痛、歯周病が多く挙げられている。講座では、これらの対処法や予防法を中心に説明する。また、講座の中でブラッシングの方法を実践することで、任国でも、継続して口腔ケアができるよう訓練中から努めること。

1. 虫歯と予防
2. 歯周病と治療
3. ブラッシング
4. 親知らず、口内炎、顎関節症等

**履修要件**

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

**評価方法**…講座の評価方法を示している。

**評価方法**

健康管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る

対応能力・適性

健康 5-1

**対応能力・適性**…該当講座を履修することにより、伸ばすことができる対応能力・適性を示している。

**講師略歴**

外部講師

●● ●●氏

●● ●●氏

**講師略歴**

[担当スタッフ: ●●]

**担当スタッフ**…該当講座の責任者。不明点などはこちらまで知らせること。

\*持参物  
日常使用している歯ブラシ(ブラッシングの実践をする)

**留意点等**…講座毎に個別の注意事項がある場合があるので、必ず確認すること。

# ストレスマネジメントに関する レポート

提出日  
●月●日 (●)  
研修棟 講堂

## ● テーマ

日本とは生活環境が異なる任国で活動する上で、多くのボランティアがストレスを感じ、なかには、心身の不調をきたすボランティアもいる。

ストレスに対する受け止め方には個人差があるが、これからの任国での生活や活動に向けて、自分自身と向き合い、自分なりのストレス対策を実践することが重要となる。

これまでの生活や自分をとりまく人間関係において、自分がどのような時にストレスを感じやすいか、どのように乗り越えてきたかを振り返り、自分自身のストレス対処法などをレポートしておくこと。

## ● 書式

- 月●日 (●) ワクチン接種時間に配布する所定用紙（手書き）を使用する。
- 記入は必ず黒インクのボールペンを使用する。（鉛筆は不可）。
- 修正液、修正テープの使用は可。

## ● 提出方法

- ワクチン接種時間に、体育館の提出箱へ提出する。

## ● レポートの取り扱いについて

- 既往歴があっても申告せず、現地で想像以上にストレスがかかり病気が再発し、帰国するケースも多いことから、正直に記載すること。
- ストレスマネジメントレポートで過去の既往歴について記載があった場合、JICAが派遣の可否について再検討する場合がある。

[担当スタッフ：●●]

## B-2 活動手法 目標管理

各講座の日程は  
講座毎の日程  
を参照のこと

### 単元の目的

目標管理の単元では派遣 6 か月後に作成する目標管理シートの作成、進捗の管理の仕方、振り返りの仕方を実際に経験しながら学ぶ。

各々が、訓練開始時にボランティアに求められる能力・適性のベースラインを把握した上で、派遣前訓練における目標と活動計画を設定する。訓練の間にはその進捗を確認し、終了時に振り返りを自ら行うことで、目標管理の手法を身に付けることを目的にしている。

### 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解
- 5-1. 健康管理能力
- 5-2. 安全管理能力

### 担当スタッフ



### ● 単元の構成

講座	備考
<b>B-2-1. ボランティア活動の流れ</b> ・2年間の活動イメージ ・ボランティアに求められる能力・適性の自己評価	2コマ、実施：訓練開始時
自主時間計画：目標管理シート（事前）を完成。	
<b>B-2-2. 目標管理概論</b> ・目標管理のプロセス（目標管理シートの作成、進捗管理、評価方法） ・各段階のやり方、留意点	3コマ、実施：訓練開始時 目標管理シートは●月●日に目標管理面談員まで提出すること。
自主時間計画：目標管理シート(案)を作成。 個人面談(B-2-5.)：目標管理シートを使って目標管理面談員と面談。 自主時間計画：面談結果を踏まえて目標管理シートを完成。	
<b>B-2-3. 活動管理</b> ・計画策定、実施のプロセス、ツール、留意点 ・目標管理シートの実績値の入力と修正	2コマ、実施：訓練中間時
自主時間計画：目標管理シートの前半期の「活動実績」「達成した成果と根拠」「直面した問題と対処方法」の記入、後半期の活動計画修正。 個人面談(B-2-5.)：前半期の振り返りと後半期の活動について目標管理面談員と面談。 自主計画時間：面談結果を踏まえて目標管理シートを完成。	
<b>B-2-4. 振り返り・評価</b> ・任地での目標管理シート作成、進捗管理、振り返り ・派遣前訓練の目標管理シートの実績値の入力と振り返り	2コマ 実施：訓練終了時
自主時間計画：目標管理シートの後半期の「活動実績」「達成した成果と根拠」「直面した問題と対処方法」の記入。 個人面談(B-2-5.)：訓練全体の振り返りを目標管理面談員と一緒にいき、派遣後に伸ばす能力・資質を明確にする。	

## 達成目標

2年間の活動イメージを認識し、ボランティアに求められる能力・適性の自己評価が出来るようになる

 講座の内容

派遣開始から派遣終了まで、2年間の活動が一般的にどのような流れとなっているのか、過去の隊員は具体的にどのような活動をしているのか、成功もしくは失敗した活動の要因について例を紹介する。その上で、現地で高いパフォーマンスをあげるために必要なボランティアの能力について学び、自分の強み・弱みを把握する。

## 1. 派遣期間中の流れ

- (1) 派遣開始直後のイベント、活動内容
- (2) 派遣半年後のイベント、活動内容
- (3) 派遣1年後のイベント、活動内容
- (4) 派遣1年半後のイベント、活動内容
- (5) 派遣終了時のイベント、活動内容

## 2. ボランティア活動の種類

- (1) 配属先の類型(技術移転型、教室型、対住民型など)
- (2) 類型別の特徴

## 3. 成功事例、失敗事例


- (1) ボランティアの成功事例と失敗事例
- (2) どのような行動が成功、失敗に繋がったか

## 4. ボランティアに求められる対応能力・適性

- (1) 高パフォーマンスをあげるボランティアの対応能力・適性について
- (2) 自己分析(個人演習)

## \*受講にあたっての留意事項

4.(2)の自己分析結果に基づき、訓練期間中の目標管理シートを作成する。また、ボランティアに求められる能力、資質は派遣前訓練だけでなく、派遣期間中の能力強化を考える際のベースになるものなので、しっかりと理解すること。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

目標管理シート、目標管理単元の振り返りシート記入により、候補者自身が自分の学びを振り返る。また観察シートからの評価も行う。

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力

 講師略歴

講師要件：

途上国でのボランティア経験者

途上国でのプロジェクト立案、実施、評価の経験者  
能力強化の専門性

[担当スタッフ：●●]

達成目標

[目標管理シートの考え方、作成方法、進捗管理、振り返りの仕方を理解する](#)
 講座の内容

派遣前訓練や任地で活用する目標管理の考え方とプロセスを学ぶ。目標管理シートの作成、進捗管理、振り返りの手法を身に付けるため、派遣前訓練中に、目標管理プロセスを実践する。そのために、派遣前訓練用の目標管理シートを作成する。

## 1. 目標管理とは

- (1) 目標管理の考え方
- (2) 目標管理シートの役割

## 2. 目標管理のプロセス


- (1) 目標管理シートの作成
- (2) 目標管理シートを使った進捗管理方法
- (3) 目標管理シートを使った振り返り方法

## 3. 派遣前訓練の目標管理シート作成（演習）


- (1) ボランティアに求められる能力、資質についての自己評価を基にした訓練目標の設定
- (2) シラバスに基づく、訓練中の活動計画策定

## \*受講にあたっての留意事項

派遣前訓練の目標管理シートが時間内に完成しない場合は、自主時間計画を使って完成させ、●月●日までに目標管理面談員に提出すること。目標管理シートと自己診断シートを基に個人面談が行われる。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

目標管理シート、目標管理単元の振り返りシート記入により、候補者自身が自分の学びを振り返る。また観察シートからの評価も行う。

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力

 講師略歴

講師要件：

途上国でのボランティア経験者

途上国でのプロジェクト立案、実施、評価の経験者

PCM 手法資格認定保有者

[担当スタッフ：●●]

## 達成目標

活動を実施する際の、計画策定・実施のプロセス、ツールを説明できるようになる

 講座の内容

ボランティアは現地で、計画に基づいて、カウンターパートや関係者と一緒に活動する。そのため、この科目では、このような環境で活動する際に効果的な計画策定・実施方法について学ぶ。また、派遣前訓練の中間段階において、実際に目標管理シートの達成状況を確認することで現地での進捗管理の練習をする。

## 1. 活動管理の留意点

- (1) 計画に基づいて、複数の人と活動する際の留意点

## 2. 計画策定・実施のプロセス、ツール


- (1) 活動内容の洗い出し  
 (2) スケジュール作成  
 (3) 進捗チェックポイントの設定  
 (4) 役割分担、必要な資材の洗い出し  
 (5) 意思決定プロセス、情報共有のやり方

## 3. 派遣前訓練における進捗管理


- (1) コミュニケーション技法の課題発表や、語学の学習進捗、体力テスト等の結果を受け、前半期の「活動実績」「達成した成果と根拠」「直面した問題と対処方法」の記入方法  
 (2) 後半期の活動計画など目標管理シートの修正方法

## \*受講にあたっての留意事項

目標管理シートを、自主時間計画を使って完成させ、●月●日までに目標管理面談員に提出すること。その後、前半期の振り返りと後半期の活動についてと目標管理面談員面談する。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

目標管理シート、目標管理単元の振り返りシート記入により、候補者自身が自分の学びを振り返る。また観察シートからの評価も行う。

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感  
 2-1. 主体性  
 2-2. 協調性  
 3-1. 発信力  
 3-2. マネージメント力

 講師略歴

講師要件：

途上国でのボランティア経験者

途上国でのプロジェクト立案、実施、評価の経験者

PCM 手法資格認定保有者

## 達成目標

任地での目標管理シート作成、進捗管理、振り返りの仕方を理解する

 講座の内容

任地での現状把握、計画策定（目標管理シート作成）活動の進捗管理、振り返りの考え方と方法を学ぶ。カウンターパートとの作成方法、承認プロセス、リスク管理についても触れる。また、派遣前訓練の終了時において、実際に目標管理シートの達成状況を確認することで現地での振り返りの練習をする。

## 1. 任地での現状把握・目標管理シート作成

- (1) 現状把握の際の項目、方法
- (2) 目標管理シート作成プロセス、留意点、  
(カウンターパート、承認プロセス、リスク管理)

## 2. 任地での進捗管理・振り返り


- (1) 進捗管理の時期、方法、計画の変更
- (2) 振り返りの方法、留意点

## 3. 派遣前訓練の振り返り


- (1) グループワーク、所外活動、野外訓練、語学試験、体カテスト等の結果を受け、「活動実績」「後半期の成果」「後半期の直面した問題」の記入

## \*受講にあたっての留意事項

目標管理シートを、自主時間計画を使って完成させ、●月●日までに目標管理面談員に提出すること。その後、訓練全体の振り返りと派遣後の伸ばすべき対応能力・適性について目標管理面談員と面談する。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

目標管理シート、目標管理単元の振り返りシート記入により、候補者自身が自分の学びを振り返る。また観察シートからの評価も行う。

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力

 講師略歴

講師要件：

途上国でのボランティア経験者

途上国でのプロジェクト立案、実施、評価の経験者

PCM 手法資格認定保有者

[担当スタッフ：●●]

## 達成目標

JOCV：目標管理管理面談により自分の強みや弱みを把握する  
SV：派遣前訓練への取組状況を把握する

 面談の内容

## 【JOCV】目標管理面談

対応能力・適性評価記入シートと目標管理シートを使った目標管理相談員との面談を通じ、主観的な自己分析と客観的な自己分析でどのような違いがあるのかを把握する。また、訓練が終わった後に如何なる能力、資質をどんな研鑽を続け、伸ばしていくかについても話し合う。面談は訓練開始時、中間時、終了時の計3回実施する。


\*受講にあたっての留意事項  
中間時と終了時の面談では、達成した成果の根拠を用意すること。

## 【SV】個人面談

ボランティア事業への参加の動機、派遣前訓練への取組状況、合同合宿制訓練の感想、睡眠時間等について聴き取りを行う。面談は訓練開始時、終了時の計2回実施する。

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

なし

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解
- 5-1. 健康管理能力
- 5-2. 安全管理能力

[担当スタッフ：●●]



## 単元の目的

ボランティアの活動に必須であるコミュニケーションスキルについて学んだあと、生活班単位で課題(日本について)を研究し、コミュニケーションスキルを活かした発表をする。

コミュニケーションスキルの習得だけでなく、課題発表の準備を通じたグループ活動で、計画能力や協調性などの対応能力・適性を伸ばすことも目的としている。

## 対応能力・適性

- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

## 担当スタッフ



## ● 単元の構成

科目	備考
B-3-1. コミュニケーション技法オリエンテーション (F.各種オリエンテーション一覧表 参照) オリエンテーションは、生活班単位で実施する。	
B-3-2. コミュニケーションの基礎 ・コミュニケーションの構造	2 コマ
B-3-3. ファシリテーションの基礎 ・ファシリテーションのコツ ・ワークショップの企画方法	2 コマ
B-3-4. プレゼンテーションの基礎 ・PowerPoint スライド作成のポイント	2 コマ
自主計画時間：生活班ごとに課題（日本について）発表の役割分担、計画、研究、発表準備を行う。	
B-3-5. 課題発表・振り返り ・課題発表は、2 コマ×2 回に分けてプレゼンテーションを行う。 ・課題は『日本について(社会、経済、文化)』とする。	課題発表 4 コマ * 課題発表ではアンケートを取ること。 振り返り 2 コマ(課外) * 課題発表後、自主計画時間を活用して行う。

達成目標

異文化でのコミュニケーションの難しさを理解し、情報発信方法を理解する

 講座の内容

伝えたい内容を理論的に整理し、簡潔にわかりやすく、印象深く伝えるための技法を学ぶ。

1. コミュニケーションの理解

- (1) コミュニケーションの構造  
(発信→受信→理解→フィードバック)
- (2) 日本型コミュニケーション  
(ハイコンテキスト型) の問題点と解決方法

2. 情報の発信 (講義+演習)

- (1) 自分の言いたい事をどのように整理するかについて


3. 情報の受信

- (1) ジェスチャー、視線などの非言語情報について


4. コミュニケーションの実践 (個人演習)

- (1) 学んだスキルを実践してみる。

\*受講にあたっての留意事項  
学んだスキルを課題発表等で実際に使用するという  
ことを意識しながら講義を受けること。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

コミュニケーション技法単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また生活班担当による観察シートと課題発表のプレゼンテーション、成果品から評価する。

対応能力・適性

- 2-1. 主体性
- 3-1. 発信力

 講師略歴

講師要件：  
海外（できれば途上国）での  
半年以上の業務経験者  
コミュニケーションについて  
の講師経験者

[担当スタッフ：●●]

達目標

ファシリテーションをする際のポイントを理解する

## 📖 講座の内容

ファシリテーターとは、ワークショップやミーティングなどの場で、様々な意見が出るよう工夫したり、合意形成をする手伝いをしたりする人のことである。ファシリテーションは任地の活動で必要なだけでなく、社会人としても必要なスキルであるため、考え方を学んで、派遣前訓練のグループ活動や任地での活動、帰国後に活かすことを目指す。

### 1. ファシリテーターの役割

- (1) ファシリテーターとは
- (2) ファシリテーターに必要な能力

### 2. ファシリテーションのポイント

- (1) ファシリテーションの基本的なコツ
- (2) タイムマネジメント
- (3) 紛争解決

### 3. ミーティング・ワークショップの企画方法

- (1) 目的設定
- (2) 参加者、スケジュール、準備

\*受講にあたっての留意事項  
学んだスキルを課題発表等で実際に使用するという意識をしながら講義を受けること。

## 👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

## 👁️ 評価方法

コミュニケーション技法単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また生活班担当による観察シートと課題発表の成果品から評価する。

## ☑️ 対応能力・適性

- 2-1. 主体性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力

## 👤 講師略歴

講師要件：

ワークショップの企画、実施、ファシリテーションの経験者

※途上国でのワークショップ実施経験者が望ましい

[担当スタッフ：●●]

達成目標 プレゼンテーションを行う際のポイントを理解する

## 📖 講座の内容

任国での活動中、情報共有や報告など、プレゼンテーションをする機会が多い。そこで、プレゼンテーションをする際のポイント、特にスライドの作成方法を中心にノウハウを学ぶ。

### 1. 効果的なプレゼンテーション

- (1) 環境に合わせたプレゼンテーション
- (2) 話し方、視線、態度、表情

### 2. プレゼンテーション資料の作り方

- (1) 資料の分量
- (2) 構成の分かりやすさ
- (3) 視覚的な分かりやすさ

### 3. PowerPoint スライドの作り方

- (1) 色、フォントサイズ、レイアウト、キーワード、アニメーション、図表。

### 4. プレゼンテーションの準備

- (1) 必要な準備

#### \*受講にあたっての留意事項

学んだスキルを課題発表等で実際に使用するという意識をしながら講義を受けること。

## 👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

## 👉 評価方法

コミュニケーション技法単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また生活班担当による観察シートと課題発表の成果品から評価する。

## 対応能力・適性

3-1. 発信力

## 👤 講師略歴

講師要件：

プレゼンテーションについての講師経験者

[担当スタッフ：●●]

## 達成目標

コミュニケーション技法を活用して課題発表を行い、生活班担当と一緒に振り返ることで学びを得る

 講座の内容

自主時間計画を使って準備をしてきた課題の発表を行う。発表は生活班ごとに行う。

## 1. 課題発表：日本について(社会、経済、文化)

- (1) 発表時間はアンケート記入も含めて4コマ(2コマ×2回に分け)で実施する。生活班ごとに10分以内で行う。
- (2) 発表していない班は、他のグループの発表を見て、評価を行う。

課題発表後、自主計画時間(2コマ)を活用して、振り返りを行う。振り返りの内容は以下のとおり。


- ・準備から発表までの流れについての自己評価
- ・単元全体を通じた学びの共有
- ・各生活班からのコメント

## \*受講にあたっての留意事項

他のグループの発表を聞いた後は、発表者の役に立つコメントをアンケートに記入すること。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

コミュニケーション技法単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分達の学びを振り返る。また生活班担当による観察シートと課題発表のプレゼンテーション、成果品から評価する。

 対応能力・適性

- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

 講師

講師は配置しないが、振り返りでは、生活班担当を配置する。

[担当スタッフ：●●]

### 単元の目的

現状の把握やニーズ調査などに活用可能な調査手法について学ぶ。(D-4-4 所外活動では、本単元で取得した手法を用いて簡易調査を実施し、結果を取りまとめる。)

調査手法の習得だけでなく、簡易調査の準備を通じたグループ活動で、マネジメント能力や協調性などの対応能力・適性を伸ばすことも目的としている。

### 対応能力・適性

- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

### 担当スタッフ



### ● 単元の構成

科目	備考
B-4-1 調査オリエンテーション：(F.各種オリエンテーション一覧表 参照) 任国や職種、生活班で固まらないようなグループに分かれる。	
B-4-2. 情報収集 ・アンケート、インタビューなど情報収集ツールの使い方	3 コマ
B-4-3. 参加型調査手法 ・視覚ツールの使い方	3 コマ

達成目標 効果的な情報収集の方法を理解する

## 📖 講座の内容

ボランティアが派遣されてまず行うことは現状把握である。現状把握のためには様々な情報を収集する必要があることから、情報収集の方法を学ぶ。

### 1. 情報収集の種類

- (1) インターネットや文献による情報収集
- (2) 調査手法の種類、メリット、デメリット

### 2. 調査計画

- (1) 調査計画表の作成方法
- (2) ケースごとの調査計画表例紹介

### 3. アンケートによる情報収集

- (1) アンケートの作成方法（選択式、自由記述、点数付け）
- (2) ケースごとのアンケート例紹介

### 4. インタビューによる情報収集

- (1) インタビューの種類
- (2) インタビュー演習（ストラクチャードインタビュー、セミストラクチャードインタビュー）

#### \*受講にあたっての留意事項

学んだスキルを訓練期間中、現地で実際に使用するという意識しながら講座を受けること。

## 👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

## 👉 評価方法

調査手法単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また担当スタッフによる観察シートと成果品（調査結果）からも評価する。

## 対応能力・適性

- 2-1. 主体性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力

## 👤 講師略歴

講師要件：  
途上国での調査経験者

[担当スタッフ：●●]

達成目標

RRA の視覚ツールを活用できるようになる

 講座の内容

短時間に参加型で調査をするための手法である RRA (Rapid Rural Appraisal) を学ぶ。

## 1. RRA の概要説明 (講義)

- (1) RRA の概要、プロセス、メリット、デメリット
- (2) 視覚ツールの種類、活用方法

<紹介する視覚ツール>

- ・空間を視覚化するツール (マッピング、見取り図)
- ・時間の流れを視覚化するツール (作物カレンダー、週間スケジュール、日課)
- ・関係性を視覚化するツール (組織関係図、ベン図、フロー図、家系図)
- ・ランキング (投票、総当たりランキング)

## 2. 視覚ツール演習


- (1) グループで、視覚ツールを作成する。

## \*受講にあたっての留意事項

学んだスキルを演習で実際に使用するという意識しながら講義を受けること。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

調査手法単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また担当スタッフによる観察シートと成果品 (調査結果) からも評価する。

 対応能力・適性

- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力

 講師略歴

講師要件:

途上国での調査経験者

[担当スタッフ: ●●]



### 単元の目的

ボランティアが活動する際、任地での技術水準やその使われ方は日本とは異なることがほとんどであり、思うように活動できないこともある。

本単元では、途上国特有の環境における活動手法の基礎及び先輩隊員や技術顧問から開発途上国での協力活動を円滑に行うために必要かつ効果的な手法を学び、任地で活かすことを目的としている。

### 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

### 担当スタッフ



### ● 単元の構成

科目	備考
B-5-1. 協力活動手法	WBT『青年海外協力隊講座』によるインターネット事前学習
B-5-2. 協力活動手法	2 コマ
B-5-3. 職種別活動セミナー	2 コマ *一部の職種は課業外に各 OV 会によるセミナーの実施あり

## 達成目標

ヒト、モノ、カネが不足する開発途上国における協力活動の基本姿勢や活動手法の考え方を学ぶ

 講座の内容


2部構成。音声と映像を視聴し学習する。

## 第1部

隊員の活動現場に即した活動とは何か、どのような協力手法が求められるのか、西アフリカで活動した栄養士隊員の事例を基に考える。

## 第2部

国際協力の現場において、現地の社会環境を良く見極めることの必要性、重要性について南部アフリカの複数の国々で実施された簡易コンロの普及活動の事例を比較しながら考える。

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 講座のポイント

ボランティア候補者は、選考と技術補完研修を通じて「ボランティアとして必要な技術・技能を有している」と認められ派遣前訓練に参加する。しかし、任地での技術水準やその使われ方は日本とは異なることがほとんどである。本講座では途上国特有の環境における活動手法の基礎を学ぶ

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

## 達成目標

任国における職種分野別技術水準や適正技術について理解する


 講座の内容

職種分野別のグループに分かれ、担当の技術顧問から開発途上国での協力活動を円滑に行うために必要かつ効果的な手法を学ぶ。

- ・ 対象者の名簿や指定場所等は、後日掲示板で確認（対象者以外は語学自習）
- ・ 講師の判断により、実施しない職種分野あり
- ・ ボランティア要望調査票を持参
- ・ 事前の掲示を必ず確認

## ■平成 25 年度 技術顧問一覧

担当職種分野	氏名	担当職種分野	氏名
稲作・野菜栽培等	●●	コンピュータ技術等	●●
体育・スポーツ全般	●●	PC インストラクター等	●●
溶接・工作機械等	●●	青少年活動 等	●●
電気・電子機器等	●●	環境教育・林業・森林保全等	●●
自動車整備等	●●	手工芸・婦人子供服等	●●、●●
土木全般	●●	幼児教育	●●
都市計画・建築・造園等	●●	美術・音楽等	●●
看護師・助産師・保健師	●●	感染症・エイズ対策等	●●
作業療法士・養護等	●●	小学校教育等	●●
家政・料理・栄養士等	●●	日本語教師	●●
コミュニティ開発等	●●	算数教育	●●
交通安全等	●●	理科教育	●●
通信インフラ等	●●	動物学等	●●
ジャーナリズム等	●●		

 履修要件


対象者	要件
JOCV	☆ 指定者必修
SV	×

 講座のポイント

ボランティア候補者は、選考と技術補完研修を通じて「ボランティアとして必要な技術・技能を有している」と認められ派遣前訓練に参加する。しかし、任地での技術水準やその使われ方は日本とは異なることがほとんどである。技術顧問から活動成功の秘訣を掴むため、本講座を活用する。

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

 講師

協力隊技術顧問・技術専門員・国際協力専門員  
 それぞれの職種分野別に委嘱され、JICA ボランティアの選考、任国での活動に対する技術的なアドバイス等を行なっている。

[担当スタッフ：●●]


達成目標

任国における職種分野別の技術水準や円滑な協力活動を行うための情報収集をする

 講座の内容

職種分野別のグループに分かれ、JICA ボランティア OV から開発途上国での協力活動を円滑に行うための情報を収集する。

- ・ 対象者の名簿や指定場所等は、後日掲示板で確認
- ・ ボランティア要望調査票を持参
- ・ 事前の掲示を必ず確認

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 講座のポイント

JOCV 候補者は、選考と技術補完研修を通じて「ボランティアとして必要な技術・技能を有している」と認められ派遣前訓練に参加する。しかし、任地での技術水準やその使われ方は日本とは異なることがほとんどである。先輩隊員たちから引き継がれた「コツ」を掴むため、本セミナーを活用する。

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

 講師

JICA ボランティア OV

[担当スタッフ：●●]

**単元の目的**

体力増強の単元では、任国での活動の基礎となる体力を強化し、その維持に関する知識を身に付ける。訓練開始時のスポーツテスト①で現状を把握し、訓練期間中に朝の集い後のマラソン(若しくはウォーキング)、自主計画時間を使った体力増強活動を通じて強化し、修了時のスポーツテスト②でモニタリングを行う。また、体力維持・増進を図り、協調性、団結力を醸成することを目的にスポーツ大会を実施する。

**対応能力・適性**

□ 5-1. 健康管理能力

**担当スタッフ**

●●

## ● 単元の構成

科目	備考
C-2-1. 体力テスト①②	4 コマ
C-2-2. 体力維持講座	2 コマ
C-2-3. スポーツ大会	4 コマ

## 体力テスト①②

① ●月●日(●)  
●:●~●:●  
② ●月●日(●)  
●:●~●:●

## 達成目標

入所時の体力を把握し、訓練期間中に維持・増強し、変化を確認することにより任国での体力維持・管理に役立てる

## 📖 講座の内容

体力テストでは、入所時の自分の体力を把握したうえで、訓練中に各自のレベルに合わせた体力の維持・増強を実施し、中間時と終了時に変化を確認することで、任国においても健康・体力の維持ができるよう役立てる。

## 1. 日時

(1) 体力テスト①(入所時)

●月●日(●) ●:●-●:● 場所: ●●

(2) 体力テスト②(終了時)

●月●日(●) ●:●-●:● 場所: ●●

## 2. 体力テスト項目(20~64歳対象)

(1) 握力

(2) 上体起こし

(3) 長座体前屈

(4) 反復横とび/※もしくは開眼片足立ち

(5) 20m シャトルラン(往復持久走) /※もしくは6分間歩行

(6) 立ち幅跳び/※もしくは10m 障害物歩行

\*受講にあたっての留意事項  
運動のできる服装で参加すること。

## 👤 履修要件

対象者	要
JOCV	○
SV	×

## 👉 評価方法

訓練開始時、中間時、終了時の体力測定結果から、体力の維持・増強への取り組みを評価する。

 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

## 👤 講師

講師なし。訓練スタッフ及び体育委員が中心となって測定を行う。

[担当スタッフ: ●●]

## 達成目標

訓練期間及び任国における健康・体力の維持・増進の重要性について実践を通して学ぶ

 講座の内容

ウォーミングアップをして体を温め、筋肉や関節の柔軟性を高め、怪我や傷害を防ぎ、スポーツや運動を楽しむ。

## 1. 柔軟性と敏捷性を高める運動

- (1)脚、腰を伸ばす運動
- (2)バランスよく脚を伸ばす運動
- (3)肩、胸、胸部を伸ばす運動
- (4)肩、脚の柔軟性を保つ運動 等


## 2. 仲間と楽しく動く運動

- (1)肩、腕の動きをなめらかにする運動
- (2)脚、腰、背を伸ばす運動


## 3. ラジオ体操

ラジオ体操は13の運動で構成されている。日常生活や仕事ではあまり使われていない筋肉や関節をバランスよく動かして、柔軟性や筋力、調整力(バランス感覚やリズムカルに身体を操作する機能、いざという時に素早く身体を反応させ、安全性を高める機能)、全身の血液循環を良くする等、頭から足先まで運動刺激を与え、全ての機能を活性化させることができる。運動一つ一つの意味、そして動作のポイント等について学ぶ。

\*受講にあたっての留意事項  
運動のできる服装で参加すること。

 履修要件


対象者	要
JOCV	○
SV	○

 評価方法

体力増強単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

 講師略歴

外部講師

●● ●● 氏  
●● ●● 氏

[担当スタッフ: ●●]

## 達成目標

訓練期間及び任国における健康・体力の維持・増進の重要性について実践を通して学ぶ

## 📖 講座の内容

体力維持・増進を図り、協調性、団結力を醸成する。

ウォーミングアップをして体を温め、筋肉や関節の柔軟性を高め、怪我や傷害を防ぎ、スポーツや運動を楽しむ。

1. 場 所： 訓練所内（グラウンド／体育館等）
2. 実施種目： ドッジボール／ソフトバレーボール、卓 球（雨天時）等
3. 日 程： ●●：●● 開会式、準備運動  
●●：●● 競技開始  
●●：●● 閉会式  
●●：●● 清掃、後片付け
4. 組み合わせ、対戦方法： 詳細は別途連絡
5. 競技運営： 競技の運営、開・閉会式の進行は、体育委員が中心になって行う。
  - (1) 開会式： 開会宣言、所長挨拶、特別参加者紹介、諸注意、選手宣誓、準備運動
  - (2) 競 技： 前半のリーグ戦と後半のトーナメント戦（順位決定戦）
  - (3) 閉会式： 整理運動、成績発表・表彰、講評、諸連絡、閉会宣言
  - (4) 表 彰： 優勝、2、3位チームを表彰

## \*受講にあたっての留意事項

- ・運動に適した服装で参加すること。
- ・全員で協力し合い、フェアプレーに徹するとともに、ケガ等の事故に遭わないよう注意する。
- ・用具は、試合終了後、元の位置に責任を持って戻し、体育委員を中心に全員で清掃、後片付けを行う。

## 👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

## 📝 評価方法

体力増強単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

## 👤 講師略歴

体育委員が中心となって運営を行う。

[担当スタッフ：●●]



**単元の目的**

ボランティアの任地には日本の通常生活では遭遇・経験しないような事故、事件、疾病等のリスクが存在する。中には深刻な被害を及ぼす可能性が高いものがある一方で、途上国の医療サービスレベル・アクセスには制約がある。これらリスクを如何に予防・回避するか、また不幸にしてリスクが具現化した場合、如何に軽減するかはボランティアにとって極めて重要な問題である。

本単元では過去の事例を踏まえ、安全対策を学ぶとともに、異文化不適應に起因する精神衛生等についても理解を促進する。

## ● 単元の構成

科目	備考
C-3-1. 診察室オリエンテーション	1 コマ
C-3-2. 派遣前健康管理オリエンテーション	1 コマ
C-3-3. 救急法	4 コマ
C-3-4. 婦人科（対象者のみ）	2 コマ
C-3-5. 歯科衛生	1 コマ
C-3-6. 日本人の疾病動向と健康管理	2 コマ
C-3-7. 精神衛生	2 コマ
C-3-8. 感染症	3 コマ
C-3-9. 座禅	2 コマ
C-3-10. 医療者特別講座（対象者のみ）	1 コマ

## 対応能力・適性

- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解
- 5-1. 健康管理能力
- 5-2. 安全管理能力

## 担当スタッフ




## 達成目標


派遣前訓練中の診療室利用や医療機関の受診など健康管理について理解するとともに赴任にあたり必要な予防接種について理解する。

 講座の内容

1. 訓練中の健康管理について
2. 病気の予防と対策
3. 診療室利用、外部医療機関受診、訓練所顧問医について
4. 予防接種の種類・方法・注意事項

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

健康管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

 講師

訓練所診療室看護師が行う。

[担当スタッフ：●●]


## 達成目標

赴任にあたり、任国で必要な健康管理について、現地の医療事情を学び、役立つ予防知識を身につける

 講座の内容

## 1. 任国での健康管理について

JOCV と SV で分け、派遣前、派遣直後の健康管理上の留意点を説明する。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

健康管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

 講師

訓練所診療室スタッフ

[担当スタッフ：●●]

## 達成目標

突発的な事故・負傷に対する応急処置の方法を学び、  
事故防止思想と実践で役立つ技術を身につける

## 📖 講座の内容

この講座は、理論と実践の2部構成となっており、任国での突発的な事故や負傷に際し、応急手当ができるように救急法を学ぶとともに、事故防止思想を身につけ、事故に遭わないボランティアになる心がけを持つことが重要である。

## 1. 救急法の意義（全体講義）

- (1) 救急法とは何か
- (2) 救急法を学ぶ意義
- (3) 応急手当をする際の注意事項

## 2. 止血法（実技）

## (1) 直接圧迫法

患部を直接圧迫する止血法。効果的な方法と材料、注意点について学ぶ。

## (2) 間接圧迫法（指圧止血法）

動脈を押さえることによって血流を止める止血法。どの部位をどのように押さえると効果的か、実践しながら学ぶ。

## 3. 包帯法（実技）

- (1) 包帯の目的
- (2) 包帯を使用する上での注意
- (3) 三角巾の使用法

## 4. 心肺蘇生法・AED利用法（実技）

- (1) 心肺蘇生人形を用いた心肺蘇生法
- (2) AED（自動体外式除細動器）の使用法

## 5. その他（実技）

スポーツ傷害、脱水症状、エコノミー症候群などへの処置

## \*受講にあたっての留意事項

- ・運動着等の動きやすい服装で受講すること。
- ・筆記用具、ハンカチ・日赤救急法テキスト（訓練所より貸与）を持参すること。
- ・使用するテキスト：日赤救急法テキスト（訓練所より貸与）

## 👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

## 📝 評価方法

健康管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

- 5-1. 健康管理能力
- 5-2. 安全管理能力

## 👤 講師略歴

外部講師

●● ●●氏  
●● ●●氏

[担当スタッフ：●●]

## 達成目標

女性が罹りやすい病気の基礎知識と自己管理のための知識を身につける


 講座の内容

派遣中の主な婦人科疾患である月経不順をはじめ、各疾患や診断において重要となる基礎体温測定の意義を知り、自己管理方法について学ぶ。


## 1. 基礎知識と派遣中の婦人科疾患

- (1) 女性の生理/基礎体温
- (2) 婦人科の症状と疾患
- (3) 婦人科の診察
- (4) 子宮がん
- (5) 派遣中における婦人科疾患の症例

## 2. 中高年女性の健康管理

 履修要件


対象者	要件
JOCV	女性○ 男性△
SV	△

 評価方法

健康管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

 講師略歴

JICA 国際協力人材部  
健康管理課 婦人科顧問医

●● ●●氏

外部講師

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]

## 達成目標

任国における口腔衛生の重要性と歯科疾患予防の知識を身につける

 講座の内容

任国での歯科相談の内容としては、詰め物の脱落、虫歯、知覚痛、歯周病が多く挙げられる。講座では、これらの対処法や予防法を中心に説明する。また、講座の中でブラッシングの方法を実践するので、任国でも、継続して口腔ケアができるよう訓練中から努めること。


1. 虫歯と予防
2. 歯周病と治療
3. ブラッシング
4. 親知らず、口内炎、顎関節症等

\*持参物

日常使用している歯ブラシ(ブラッシングの実践をする)

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

健康管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

 講師略歴

外部講師

●● ●●氏

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

生活習慣病の予防と対策を学ぶ

 講座の内容

この講座は、運動・食事・禁煙を中心に、生活習慣病の予防法や改善法を説明し、実践に役立ててもらいたい。

日本人の死亡原因と罹患率や生活習慣病の予防と対策を学び、任国のみならず今後の健康管理に役立てる。

## 1. 日本人の死亡原因と罹患率

- (1) 死亡原因の推移
- (2) がんの部位別死亡率

## 2. 喫煙と健康について


- (1) 死亡原因と喫煙の関係
- (2) 受動喫煙

## 3. 生活習慣病と動脈硬化疾患


- (1) メタボリックシンドローム
- (2) 運動療法
- (3) 食事療法

## 4. 新世代の生活習慣病

## 5. 健康の自己管理について

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

健康管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る・

 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

 講師略歴

JICA 国際協力人材部

健康管理課 顧問医

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]


## 達成目標

任国で心身ともに健康で過ごすことの重要性を理解し、任国でのストレス対処法を学ぶ

 講座の内容

心と身体の深い繋がりを理解し、多くのストレスが押し掛かる任国において心身ともに健康で過ごすための知識を学ぶ。この講座を踏まえて、任国ではもちろんのこと、現在の派遣前訓練の環境や日常生活におけるストレス対策の参考とする。

1. メンタルヘルスに関する基礎知識
2. 予防と早期発見
3. ストレスに対処するには
4. 周囲との関係
5. 任国とストレス
6. うつ病について

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

健康管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る

 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

 講師略歴

外部講師

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]



## 達成目標

任国の感染症についての知識を深め、予防と罹患時の対処を身にける

 講座の内容

派遣国には日本では流行しない多くの感染症が存在し、医療事情が異なるが、その多くは意識次第で予防が可能である。この講座では、各感染症の基礎知識、予防法、対処法について学び、感染症の理解を深め、健康に活動が出来るよう自己管理能力を高める。

## 1. 感染症の基礎知識


- (1) 任国での感染症
- (2) 生活上の基本的な注意点

## 2. 各感染症


- (1) マラリア、デング熱など各疾患
- (2) 症状と対処法
- (3) 予防接種

## 3. 性感染症

- (1) 性感染症とは
- (2) HIV/AIDS などの各疾患
- (3) 性感染からの予防方法

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

健康管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る

 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

 講師略歴

外部講師

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

自分を見つめ、安定した心持ち、精神修養を図る。

 講座の内容

日本の伝統的文化を理解し、協力隊活動を効果的に実行するために求められる幅広い分野での教養を深め、自らが経験する隊員生活を今後の人生に活かせるよう導く。

## 1. 内容

## (1) 講話


命をどう使い(使命)、人生をどう使うか、また、講師の人生のテーマや「心」について。

## (2) 座禅

禅宗の住職を招き座禅を体験する。無の境地を目指すものとはやや違い、心を落ち着け、訓練への取り組みと任国へ赴任するにあたって改めて自分に問い直す機会とする。

## \*受講にあたっての留意事項


座禅に参加する人は、講話終了後、座禅しやすい服装に着替えること。また、毛布、枕を各居室から持参すること。

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 対応能力・適性

- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解
- 5-1. 健康管理能力

 講師略歴

外部講師

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]


達成目標

針刺し事故後の HIV 感染予防対策と対処方法を学ぶ


 講座の内容

「医療者特別講座」では、血液に触れるリスクが高い活動を行う予定の候補者に対し、針刺し事故の予防対策や対処方法を説明する。

1. 針刺し事故の予防
2. スタンダードプリコーションとは
3. 針刺し事故発生状況
4. 感染のリスク
5. 健康の自己管理について

 履修要件


対象者	要件
JOCV	医療関係職種は ○(必修)
SV	その他は□(自由 参加)

 評価方法

健康管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

5-1. 健康管理能力

 講師略歴

JICA 国際協力人材部

健康管理課 顧問医

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]

### 単元の目的

ボランティアの任地には日本の通常生活では遭遇・経験しないような事故、事件、疾病等のリスクが存在する。中には深刻な被害を及ぼす可能性が高いものがある一方で、途上国の医療サービスレベル・アクセスには制約がある。これらリスクを如何に予防・回避するか、また不幸にしてリスクが具現化した場合、如何に軽減するかはボランティアにとって極めて重要な問題である。

本単元では、過去の事例を踏まえ、凶悪一般犯罪を中心に、政情不安、それに伴う緊急避難、薬物犯罪の傾向と対策、交通事故の主な要因の一つである交通事情や運転マナー等を学習する。また、自己管理による安全対策の心構え(セルフ・ディフェンス)や行動規範(三ない主義)を身につける。更に、青遺海の会の講話を通じ、命の尊さを認識し、安全意識の高揚を図る。

### ● 単元の構成

科目	備考
C-4-1. 海外における安全対策	3 コマ
C-4-2. 海外における交通安全	2 コマ
C-4-3. 海外における交通安全(自動二輪) ※対象者のみ	1 コマ
C-4-4. 自動二輪不整地走行練習	10 コマ(課業外)
C-4-5. 青遺海の会による講話	1 コマ
C-4-6. 避難訓練	1 コマ

対応能力・適性

□ 5-2. 安全管理能力

担当インストラクター



## 達成目標

日本と派遣国の治安状況の違いを理解し、安全を確保するための基本的な心構えと具体的な方法を学ぶ

## 📖 講座の内容

海外での犯罪実態を知り、安全対策を学ぶ。

1. 危機管理の重要性と JICA の安全管理
2. 緊急事態への心構えと発生時の対応（自然災害等を含む）
3. テロ（特に爆弾テロ）、大衆運動等のリスク対策
4. 誘拐被害防止対策
5. JICA 関係者の犯罪被害実態
6. 住居の安全対策
7. 屋内犯罪被害と安全対策
8. 屋外犯罪被害と安全対策
9. 性的犯罪被害防止対策
10. 任国外旅行の留意点
11. 薬物犯罪
12. その他

## \*スケジュール

●:●~●:● 全体講義（●●ホール）

●:●~●:● 男女別講義

男性（●●ホール）

女性（●●ホール）

## 👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

## 📝 評価方法

安全管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

5-2. 安全管理能力

## 👤 講師略歴

JICA 総務部 安全管理室  
安全対策アドバイザー

●● ●●氏

●● ●●氏

[担当スタッフ：●●]



## 達成目標

任国における交通事故防止に必要な安全意識の向上を図るとともに、日本での安全神話意識を払拭させる

## 講座の内容

JICA ボランティア派遣国の交通事情と交通事故の事例を解説と共に紹介し、日本と開発途上国の交通事情の相違を確認し、派遣国における交通事故防止に必要な安全意識の向上を図る。

## C-4-2

## 1. 交通実態の把握

- (1) 過去における JICA 関係者の事故発生状況
- (2) 任国における交通状況と実態の把握につとめ意識改革を
- (3) 交通事故に遭わないために
- (4) 交通事故に遭わない人とは

## 2. 歩行と同乗する際の安全

- (1) 歩行する際の安全
- (2) 同乗する際の安全
- (3) 乗車中の安全

## 3. 自転車・バイク・四輪車の運転

- (1) 自転車
- (2) バイク・四輪車
- (3) 事故事例 (ケーススタディ)

## 4. シニアの事故防止

- (1) 多発するシニアドライバーの事故
- (2) シニアの交通安全の留意事項

## 5. 交通事故に遭遇した場合の措置

- (1) 措置要領
- (2) 常時携行品と把握先

## C-4-3

## 6. 自動二輪(バイク) 事故に遭遇しないために

※ バイク貸与予定者のみ

## C-4-4

## 7. 自動二輪(バイク)不整地走行練習 (課業外 10 コマ程度)

※自動二輪(バイク)貸与予定者の中で対象者のみ

## 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

## 評価方法

安全管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

5-2. 安全管理能力

## 講師略歴

JICA 総務部 安全管理室  
安全対策アドバイザー

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]


## 達成目標

無事の帰国を願う留守家族の気持ちについて考え、  
命の尊さについて再認識する


 講座の内容

青遺海の会は、任期途中で不慮の事故で亡くなられた隊員の遺族の方々の会である。今後会員を1名も増やすことのないようにとの思いから、この講座が設けられている。

家族、友人、同僚、そしてこの訓練所で出会った同期の仲間たち、訓練所を取り巻く市民の方々…。見えるところでも、見えないところでも、沢山の人がボランティアの無事の帰国を待ち望んでいる。どうかそのことを忘れずに、任地でも自らの命を大切に過ごしてほしい。また、派遣前訓練修了を目前に逸る気持ちを落ち着かせ、今一度安全への意識や送り出してくれる家族の思いを心に留めてほしい。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

安全管理単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

5-2. 安全管理能力

 講師略歴

青遺海の会

●● ●●氏

[担当スタッフ：●●]

**講座テストの目的**

各種講座等を通じて学んだ国際協力、JICA 事業、JICA ボランティア事業、異文化理解、安全管理、保健衛生等、JICA ボランティアとして活動するにあたり必要な知識の習得度を確認する。

**●出題範囲**

## 《JOCV》

テーマ	参考講座等
1. 国際協力、JICA 事業、JICA ボランティア事業 (100 点) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア事業の概要、事業理念、目標などについて</li> <li>・ ODA の形態、分類、構造、JICA 事業について</li> <li>・ JICA の人間の安全保障 (概念、視点など) について</li> <li>・ 環境、ジェンダー、HIV/エイズ</li> </ul>	「JICA ボランティア事業の理念と目標」「国際関係と日本の国際協力」「JICA 事業概要」など
2. 異文化理解 (100 点) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講座「異文化適応概論」「世界の宗教理解」他応用問題</li> </ul>	「異文化適応概論」「世界の宗教理解」など
3. 安全管理 (50 点) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全管理 (交通安全に対する意識、安全対策など) について</li> </ul>	「海外における安全対策 (治安・犯罪対策)」「海外における交通安全対策」など
4. 保健衛生 (50 点) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 狂犬病</li> <li>・ 経口感染症</li> <li>・ 破傷風</li> <li>・ 日本人の疾病動向、生活習慣病</li> <li>・ 予防接種</li> <li>・ マラリア、デング熱</li> <li>・ 精神衛生</li> </ul>	「感染症」「日本人の疾病動向と健康管理」(講座)、「感染症の基礎知識と対応」(資料)など

## 《SV》

テーマ	参考講座等
1. 健康管理 (50 点) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 狂犬病、予防接種、経口感染症、マラリア、デング熱、破傷風、精神衛生、日本人の疾病動向、生活習慣病</li> </ul>	「感染症」「日本人の疾病動向と健康管理」(講座)、「感染症の基礎知識と対応」(資料)など
2. 安全管理 (50 点) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全管理 (交通安全に対する意識、安全対策など) について</li> </ul>	「海外における安全対策 (治安・犯罪対策)」「海外における交通安全対策」など

※ 講座自己確認テスト、事前学習指示内容等も参考にして、講座テストに備えること。



●その他

- ▶ 鉛筆、消しゴムを持参すること（マークシートを使用）。
- ▶ 各分野の点数が6割未満の場合、分野ごとに再テストを実施する。

[担当スタッフ：●●]

# 自主計画時間を使った自主研修 講座の準備・実施

実施可能日時は詳細参  
照のこと

## 1. 実施可能時間、場所

時 間：5：30～22：30 の内、課業時間帯以外

※但し、日程上の課業時間帯以外でも、課業が組まれている日時は除く

場 所：訓練所内で、実施に相応しい場所

## 2. ね ら い

様々な専門性を持つ候補者同士が、その専門性を活かしながら自主研修講座・自主勉強会を企画実施し、お互いに学び合う。訓練中、自ら企画・準備・実施することで、赴任後の活動に向け経験を積む機会とする。

## 3. 内 容

- ・候補者の資質向上に資するもの
  - ・主として訓練中の候補者同士が講師となり得るもの
  - ・単なる気分転換を目的とした団体スポーツ等は自主講座として位置付けない
- <過去の実施例>

HIV 講座、マラリア講座、日本語教師研修会、開発計画手法・調査分析法など

## 4. 実施手順

	内 容	期 限
1	「自主研修講座計画書」提出（別添様式）	実施 1 週間前までに（スタッフルームへ）
2	スタッフよ承認	提出後の 3 日以内 （日直室前ホワイトボードにて計画書の掲示で確認）
3	実施	
4	「自主講座報告書」提出（別添様式）	実施後 1 週間以内（スタッフームへ） □

※計画書の提出後、実施の内容にスタッフが検討した結果、再度内容の変更を求める場合もある。

## 5. 資機材

- ・講座に必要な資機材は原則として自分たちで調達、購入すること
- ・コピー、貸与可能な機材（プロジェクターなど）は事前に依頼があれば便宜を図る
- ・火気を使用する場合は、別途『火気類使用許可願』をスタッフルームに提出  
（用紙はスタッフルーム、または共有フォルダに有り）

## 自主研修講座実施計画書

氏 名 : \_\_\_\_\_  
派遣予定国 : \_\_\_\_\_  
職種/指導科目 : \_\_\_\_\_  
生活班 : \_\_\_\_\_ 班

1. 講座名 :
2. 講師名 :
3. 実施日時 :
4. 実施場所 :
5. 目的 :
  
6. 内容 :

7. 使用備品 :

8. 参加予定者氏名・派遣予定国・職種/指導科目 : (⇒ 多い場合は別紙添付)

(計 名)

9. 火気使用 : する ・ しない  
(⇒ 使用する場合は、別途火気類使用許可願を提出)

10. 配布資料 : あり ・ なし  
(配布資料の印刷をスタッフに依頼する場合は講座実施の2日前までに申し出ること)

以上

訓練総括	語学スタッフ	生活スタッフ	講座スタッフ	受付

提出期限 : 実施日を含む1週間前の19:00まで

## 自主研修講座実施報告書

氏 名： \_\_\_\_\_

派遣予定国： \_\_\_\_\_

職種/指導科目： \_\_\_\_\_

生活班： \_\_\_\_\_ 班

1. 講座名：
2. 講師名：
3. 実施日時：
4. 実施場所：
5. 目的：
6. 内容：

7. 実施成果等（レジュメ、資料等あれば添付のこと）：

8. 参加者氏名・派遣予定国・職種/指導科目（多数の場合は参加者リストを添付）：

（計 名）

訓練総括	語学スタッフ	生活スタッフ	講座スタッフ	受付

**単元の目的**

ボランティアが国の実施するボランティア事業に参加するにあたり国際協力の変遷、日本の政府開発援助（ODA）の歴史および JICA 事業、ボランティア事業を理解する。第二次世界大戦後、我が国が戦後の混乱と疲弊から立ち直り経済大国へとめざましい発展を遂げた背景には、先進国政府の経済協力、国際機関からの資金供与があった。講座においては、戦後世界経済の変遷と被援助国から援助国へと変貌を遂げた我が国の国際協力の過去、現在、未来を理解するとともに、援助の受け手である開発途上国の抱えている開発課題、グローバルイシュー等についての理解を深め国際協力の必要性を認識する。

また、JICA の事業概要を把握し、JICA 事業におけるボランティア事業の位置付けを理解した上で、ボランティアとしての心構え、ボランティアに必要な要素とは何かを考える。更に、ボランティアが任国の概要、任国の JICA 事業におけるボランティアの位置付けを理解する。

## ● 単元の構成

科目	備考
D-2-1. 外務省講話	1 コマ
D-2-2. 戦後日本の国際協力の歩み	WBT『青年海外協力隊講座』によるインターネット事前学習
D-2-3. 国際関係と日本の国際協力	2 コマ
D-2-4. JICA 事業概要	1 コマ
D-2-5. 青年海外協力隊の歩みと理念	WBT『青年海外協力隊講座』によるインターネット事前学習
D-2-6. JICA ボランティア事業の理念と目標（局長講話）	2 コマ
D-2-7. 所長講話①②	2 コマ
D-2-8. 地域別・国別ボランティア派遣概要	2 コマ
D-2-9. ボランティアスピリット意見交換会①②	2 コマ
D-2-10. エイズ基礎講座	WBT『JICA-Net』によるインターネット事前学習
D-2-11. ジェンダーと開発	WBT『JICA-Net』によるインターネット事前学習
D-2-12. 開発と環境	WBT『JICA-Net』によるインターネット事前学習

**対応能力・適性**

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解
- 5-1. 健康管理能力

**担当スタッフ**

達成目標

我が国の ODA の現状を理解し、公人として派遣される JICA ボランティアの意識を高める

📖 講座の内容

日本の ODA と公人としての JICA ボランティアについて学ぶ。

1. ODA における JICA ボランティア

2. 「人間の安全保障」とボランティア活動

- (1) わが国 ODA 政策における「人間の安全保障」の理解
- (2) 基本方針と 4 つの協力実践方針
- (3) MDGs (ミレニアム開発目標)

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

👉 評価方法

ボランティア基礎講座の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

対応能力・適性

- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 4-2. 日本(人)理解

👤 講師略歴

外務省国際協力局職員

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

戦争で荒廃した日本が様々な国から支援を得ながら  
復興していく過程と、その後日本が被援助国から援助  
国の立場になっていく経緯と歴史を学ぶ

 講座の内容

3部構成。それぞれの音声と画像を学習した後、各々の主要な事項を記した年表データで詳細を学習する。また、重要な事項についての参考文献やインターネットのリンクを活用し個別に理解を深める。

第1章

戦後焦土からの「再出発期」の歴史について

第2章

援助国への「転換・成長期」の歴史について

第3章

援助大国への「飛躍期」～量から質世界一への「模索時期」について

附録 参考文献の照会とインターネットの関連リンク集

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

対応能力・適性

- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 4-2. 日本(人)理解

[担当スタッフ：●●]

達成目標

国際社会における援助の潮流と日本のODAの基本政策を理解する

📖 講座の内容

国際協力は何故必要なのだろうか。

第二次世界大戦後、日本は多くの援助を必要としていた。そこから日本はどのように発展し、現在の先進国となったのだろうか。WBT「戦後日本の国際協力の歩み」の学習を前提に、日本が行ってきたODAの変遷と現在の国際援助の潮流について学ぶ。

1. 開発途上国の現状

- (1) 開発途上国の概況
- (2) 人口を巡る状況
- (3) 地球環境を巡る状況
- (4) グローバル化を巡る状況
- (5) 開発援助委員会 (DAC) とは

2. 国際的な援助潮流

- (1) 2000年までの援助の潮流
- (2) 2000年以降の援助の潮流

3. 我が国のODAの過去・現在・未来

- (1) 戦後世界経済と日本のODAの変遷
- (2) 日本のODA政策

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

👉 評価方法

ボランティア基礎講座の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

対応能力・適性

- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 4-2. 日本(人)理解

👤 講師略歴

外部講師

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]



達成目標

我が国の ODA の現状と JICA 事業を理解し、ODA におけるボランティア事業の位置付けを理解する

 講座の内容

JICA のボランティア事業は、日本の政策に基づく国の事業であり、その大枠となる ODA の概要を学び、その中におけるボランティア事業の位置付けを理解する。


また、ボランティアは JICA の一員であり、JICA におけるボランティア事業の位置付けを理解すると共に、ボランティア活動の幅を広げるため JICA の他の事業・援助形態を理解する。

1. JICA について


- (1) JICA の組織
- (2) JICA の目的・実施方針

2. ODA、JICA におけるボランティア事業の位置付け

- (1) 「人間の安全保障」の視点
- (2) MDGs (ミレニアム開発目標)

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

ボランティア基礎講座の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解

 講師略歴

JICA 青年海外協力隊事務局  
地域課管理職

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

青年海外協力隊がどのような過程を経て創設され今日に至っているのかを理解し、協力隊の特性を踏まえた意義と理念について考える

 講座の内容

本編 4 章と別章の 5 部構成。音声と画像と動画を視聴して学習する。

第 1 章

協力隊が創設されるまでについて

第 2 章

草創期の協力隊について

第 3 章


拡大期の協力隊について

第 4 章

変革期の協力隊について

別章

帰国隊員の活動について

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 4-1. 異文化理解と適応
- 日本(人)理解

達成目標

JICA ボランティア事業を理解し、ボランティアに必要な知識と心構えを養う

📖 講座の内容

WBT「青年海外協力隊の歩みと理念」の事前学習を前提に、JICA ボランティア事業の指針や他国のボランティア事業についての理解を深め、ボランティアに必要な知識と心構えを養う。

1. JICA ボランティア事業とは

- (1) JOCV/SV はボランティアか
- (2) 国が実施するボランティア事業とは
- (3) 国際ボランティア 4つの条件
- (4) 国の支援に対する考え方

2. ボランティアによる協力の意義

- (1) 日本の協力の特徴
- (2) ボランティアに期待される役割(新 JICA におけるボランティア事業)

3. 協力活動の実際(現地に学ぶ)

4. 最後に

- (1) 派遣前訓練は、お見合いの 70 日間 (SV 35 日間)
- (2) JICA ボランティアの事業を取り巻く情勢と今後の方向性
- (3) ボランティアへの期待

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

📝 評価方法

ボランティア基礎講座の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

👤 講師略歴

独立行政法人国際協力機構  
青年海外協力隊事務局長

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]

## 達成目標

入所時の心構えと、JICA ボランティアの活動についての具体的なイメージを把握し、適切な心構えを培う

 講座の内容

入所時には「70日間(SV 35日間)の訓練を JICA ボランティア候補者としてどのような心構えで過ごすべきか」を、終了時には、JICA ボランティアとして任地での具体的な活動がイメージできるような内容となっている。

## 1. 所長講話① (入所時) 「入所時の心構え」

## 2. 所長講話② (終了時) 「JICA ボランティア活動の実践」

## (1) 途上国の特徴 (ボランティアが一度は経験する悩み)

- 1) 活動に関連した途上国の特徴
- 2) 途上国が途上国である理由
- 3) 不便な生活とそれを乗り越えるエネルギー
- 4) 脆弱な組織、不確実な技術レベル
- 5) 価値観と行動特性の違い
- 6) 受け入れ側の現状認識の不十分さ
- 7) ボランティアと受け入れ側のギャップ

## (2) JICA ボランティアが直面する問題と問題解決の方法


- 1) 生活基盤の確立
- 2) 配属先での活動における問題と活動基盤の確立
- 3) 受け入れ先の問題の本質へのチャレンジ
- 4) 問題解決に対する事務局、事務所関係者の役割

## (3) JICA ボランティアの心得 (体験談を踏まえてのまとめ)

- 1) 生活基盤の確立
- 2) 配属先での活動における問題と活動基盤の確立

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

ボランティア基礎講座の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

 講師略歴

訓練所長

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●

●]

## 達成目標

任国及びより広い地域における JICA の協力を踏まえた上で、その中での自身のボランティア派遣の位置付け及び方向性を捉える

 講座の内容

JICA ボランティアが、「どこで」（地域、国、任地）、「何をするか」（課題、分野、職種）という整理のうち、主に前者の切り口で、ボランティア派遣事業を俯瞰する講義である。

各人の派遣国及び当該地域における JICA の協力、ならびにその一つを成すボランティア派遣の基本的な考え方を理解した上で、各人が派遣される案件の位置づけ、及びボランティアの担う役割を大所高所の視点で捉える機会とする。

併せて、地域の共通課題に対する取組み（在外研修等）や、各国で実施されている分野課題別の取組み（分科会活動等）等、ボランティア活動に役立つ情報を提供する。

なお、JICA 事業全般については、別途行う「JICA 事業概要」で触れるため、本講義での説明は最低限にとどめる。

また、各任国の歴史・経済・文化・援助状況や現地の生活の様子等の情報については「任国研究」にて候補者自身で調べるとともに、別途行う「OV-DAY 任国事情」で提供されるため、本講義では扱わない。

## 1. 任国における JICA 事業、及びボランティア派遣


- (1) JICA の協力の基本的な考え方（重点分野、開発課題等）
- (2) ボランティア派遣の基本的な考え方（派遣の現状、これまでの成果、今後の派遣計画等）
- (3) 他の JICA 事業とボランティア事業の関連性（帰国研修員との協働等）
- (4) グループ型派遣の説明（グループ型派遣の候補者がいる場合）

## 2. ボランティア活動に役立つ情報


- (1) 地域共通的な取組みの事例（在外研修等）
- (2) 分野課題別の取組み事例（分科会、技術顧問の活用、他機関との連携等）

## 【配布資料】

- ・「国別ボランティア事業概要」、「ボランティア配置図・リスト」、「前任者情報」、その他の資料（必要に応じ）

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

ボランティア基礎講座の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

 講師

JICA 青年海外協力隊事務局  
各地域課 国担当職員

[担当スタッフ：●●]

D-2-9 社会的多様性理解・活用力-JICA ボランティア基礎講座-  
ボランティアスピリット意見交換会  
①②

①●月●日(●)  
●:●~●:●  
②●月●日(●)  
●:●~●:●  
●●ホール

達成目標

先輩ボランティアたちの軌跡から JICA ボランティアとしてあるべき姿を考える

 講座の内容


2年間の協力活動のベースとなる、“ボランティアスピリット”について改めて考える機会とする。JICA ボランティアとして途上国で活動する際に求められるもの、立場、取り組み姿勢を、これまでのOVたちの軌跡を通じて、候補者同士で意見交換し理解を深める。

1. ボランティアスピリット意見交換会①


各国から寄せられた JICA ボランティアに対する意見を知ること、任地での取り組み姿勢や JICA ボランティアとしてあるべき姿を考える。

2. ボランティアスピリット意見交換会②

震災ボランティアとして活躍するOVたちの姿を通じて、JICA ボランティアの強みや真のボランティアスピリットは何かを考える。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

ボランティア基礎講座の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

 講師

訓練所スタッフ

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

HIV/エイズに関する基礎知識と予防啓発活動を学ぶ

## 📖 学習コンテンツの内容

### 1. どうなる、どうする、身近なエイズ

～あなたの赴任国と HIV/エイズ～

「HIV/エイズ」は、性という全ての人に関わる行動に深く関与しており、また、差別・偏見の問題があるため、感染症対策としてだけでなく、セクターを越えた包括的な取り組み強化と全ての人々に正しい理解が求められている。本教材では、HIV/エイズについて正しい理解し、今後の活動に役立てることが目的。理解度テストあり。

### 2. アーティストになったエイズウィルス感染者

ニカラグアに青少年活動の職種で派遣された協力隊員が、エイズの予防啓発活動と HIV 感染者への精神的支援のために、エイズをテーマにした演劇活動をしている映像を収録。HIV/エイズ対策活動紹介、教育のための啓発演劇、青年海外協力隊の青少年活動体験談、演劇という手法を通して、市民や社会的弱者への精神的な自己の力を引き出すサポートを行う際等に活用することが目的。

## 👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	※
SV	※

※アフリカ派遣予定者で技術補完研修を受講していない者は○（必修）。その他は自由学習。

## ☑️ 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解
- 5-1. 健康管理能力

達成目標

ジェンダーに係る基礎知識を身に付け、ボランティア活動への活かし方を学ぶ

 学習コンテンツの内容

1. 30分でわかる！開発に役立つジェンダー入門

ジェンダーの基本的な考え方や JICA の方針、事例までの内容をクイズやアニメーションを交えて判り易くまとめている。インターネット環境でなくとも学習の可能な CD-ROM 教材。

2. ジェンダー主流化への取り組みの好例


～イエメン女子教育～

初等教育就学率のジェンダー格差が特に大きい場合、女子教育を推進するためにはどのようなアプローチが可能で、どのような配慮が必要かを、本教材は中東のイエメンで実施された「タイズ州地域女子教育向上計画」を事例として、教育分野におけるジェンダー主流化の取り組みを紹介。

3. ジェンダー主流化への取り組みの好例

～タンザニア KATC2～

「タンザニアキリマンジャロ農業技術者訓練センター画フェーズ 2」におけるジェンダー主流化のための取り組みを紹介。具体例として、女性の参加を促すために研修参加者の男女比を半々に固定し、積極的な女性の参加を求めたこと、改良かまどや家計管理など、女性が関心を持ちやすい研修コースを設けたことなどのポイントがわかりやすく解説されており、他のプロジェクトにおいてジェンダー配慮の視点を取り入れる際の参考として活用することが可能。

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

対応能力・適性

- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 4-1. 異文化理解と適応



達成目標

環境や社会に配慮した開発のあり方について学ぶ

## 📖 学習コンテンツの内容

### 1. やってみよう！環境教育-自然との調和を目指して

環境教育を実践する上での重要なポイントをわかりやすくまとめている。

“プログラムの基本”では、すべての活動の基本となる

Plan-do-check-act サイクルをアニメで学び、“環境教育いろいろ”では、自然体験プログラム、エコツーリズム、ビジターセンター、指導者養成研修の事例を映像で学ぶことができる。

### 2. 日本の3R推進の経験～試行錯誤して見えてきた循環型社会～

この教材の目的は、JICAによる技術協力事業の一環として、開発途上国における廃棄物の3R(Reduce(排出抑制)、Reuse(再利用)、Recycle(再生利用))に関する人材育成に活用することが目的。日本の取り組みと開発途上国のケーススタディを紹介し、3Rの共通理解、啓発普及用の映像型教材。

## 👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

## ☑ 対応能力・適性

- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

### 単元の目的

JICA ボランティアは異文化のなかに飛び込み、慣れない現地の言葉で活動する。このような状況の下、ボランティアは生活や業務上の慣習、ルール等の理解に努め、予見や想定範囲の広げると共に、現地の仲間・良き理解者づくりにも腐心する。

異文化適応とはどういうことか、どんな適応の過程を辿るのか。異文化理解とは辛抱強く試行錯誤を繰り返しながら慣れ親しむもので、その根底にある文化相対主義について学ぶ。講座、事例研究を通じ、人間の行動に及ぼす文化的影響や異なる文化背景を持った人々との意思伝達や人間関係の形成・維持のために必要な心構え、留意点を身につける。特に価値観や行動規範に深い影響を及ぼす宗教については、事前学習からしっかりと学ぶ。併せて、任国の歴史、文化や社会一般事情について、グループで研究し発表の場を設ける。

### ☑対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

### 担当スタッフ



### ● 単元の構成

科目	備考
D-3-1. 貿易ゲーム	2 コマ
D-3-2. 任国研究	4 コマ (課業外 15 コマ)
D-3-3. 世界の宗教事情	WBT『青年海外協力隊講座』によるインターネット事前学習
D-3-4. 世界の宗教理解	2 コマ
D-3-5. 演習 Bafa Bafa	2 コマ
D-3-6. 異文化適応概論	2 コマ
D-3-7. 異文化適応の事例研究	1 コマ
D-3-8. 地球のステージ	2 コマ(課業外)
D-3-9. 内田クレペリン検査	1 コマ

達成目標

世界経済の動きを疑似体験し、  
そこに存在する諸問題について考える


 講座の内容

参加型ゲームを通して世界経済の動きを疑似体験し、そこに存在する諸問題について考える。主な狙いは次の3つである。


1. 貿易を中心とした世界経済の基本的な仕組みについて理解する。
2. 自由貿易や経済のグローバル化が引き起こす様々な問題に気づく。
3. 南北格差や環境問題の解決に向けて、国際協力や私たち一人ひとりの行動のあり方について考える。

【講座の流れ】

- ・貿易ゲーム
- ・振り返り…ゲームを体験して気付いたこと、考えたことなどを意見交換し、互いの理解を深める。
- ・種明かし…貿易ゲームの仕組みについて知ることで、その狙いを再確認する。

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	△

 評価方法

社会的多様性理解単元の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

対応能力・適性

- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

 ファシリテーター

担当スタッフ

 お願い

- 貿易ゲームの経験がある方は絶対に内容を明かさなないこと。
- 事前学習の必要はない。何も調べずに参加すること。

[担当スタッフ: ●●]

達成目標

任国ごとに赴任する国について調べ、まとめることにより、派遣される国についての理解を深める

📖 講座の内容

B-4 の調査手法の講座で学んだことを用いて、派遣国毎にその国の任国事情を調べ、その結果を報告書として取りまとめると共に、その概略を発表する。(一カ国に複数の候補者がいる場合はグループで作業を行う。)

1. 調査項目の設定、役割の分担 (グループの場合)

「課外」で割当予定のコマ数(時間)を踏まえ、国毎に調査したい項目を設定する。また、グループの場合は役割分担を行う。なお、以下の項目は調査項目に必ず含めること。また、報告書の形式、体裁、枚数等は国毎に設定する。

- ・地理と風土
- ・歴史、政治、経済
- ・治安状況
- ・日本の協力状況
- ・生活上で注意すべき点(社会習慣、風土病等)

2. 資料収集、報告書作成、発表用資料作成

(課外: 50分×15コマ(約12.5時間)を想定)

3. グループ発表 (課内: 50分×4コマ)

原則として地域毎に集まり発表する。各国の発表時間は国数によるが概ね15~20分程度を想定。発表に当たっては、B-3で学んだコミュニケーション技法のスキルを活用する。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

📝 評価方法

社会的多様性理解単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また生活班担当による観察シートと任国研究のプレゼンテーション、成果品から評価する。

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

👤 講師略歴

講師は配置しないが、振り返りでは、生活班担当を配置する。

## 達成目標

派遣国の人々が信仰する宗教の基礎的知識を身につけ、事例を通じて宗教に対する理解を深める

 講座の内容

海外で活動する上で、その地の宗教を理解することは極めて重要である。本講座では、派遣国の人々が信仰する主だった宗教について基本的な知識を身に付けるとともに、実際にボランティアが体験した事例を通して宗教に対する理解を深める。

## 第1部

ユダヤ教、キリスト教、イスラム教等の一神教、ヒンドゥー教、仏教、シーク教等のインド起源の宗教、儒教、道教、一部の仏教等中国起源の宗教、神道、日本で根付いた仏教等の日本の宗教、その他の宗教に分け、それぞれの宗教の概要を学習する。

## 第2部

世界の宗教分布図から各宗教の基本情報を閲覧し、学習する。

## 第3部

協力隊員の派遣国地図からそれぞれの宗教事情を閲覧し、国別の宗教事情に対する理解を深める。

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 対応能力・適性

- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

## 達成目標

世界の宗教について理解を深め、日本人の宗教観を学ぶ

## 📖 講座の内容

私たち日本人は「宗教は自分とは無縁なもの」と思っていないだろうか。しかし、世界の大部分の国々では「宗教」は人々の生きる規範となっている。

世界で多くを占める「一神教」について学び、日本人の宗教観を再認識することは、任国での活動や生活に役立つだろう。宗教を通じて異文化への理解を深めることが、活動の第一歩となるかもしれない。

## 【講義前半】

世界の宗教を概観する。

1. 宗教とは何か（社会学的見地から）
2. ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の成り立ちとその相互関係をどう理解するか

## 【講義後半】

大半の日本人が持つ宗教観と、それが世界でどう受け止められるのかについて学ぶ。

1. 日本の宗教をどう理解するか
2. 国際社会において、公務に携わる国際人としてどう行動すれば良いか

## \*受講にあたっての留意点

受講の前に「宗教とは何か」を自分なりに考えて臨むこと。

## 👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

## 🗨️ 評価方法

社会的多様性理解単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また、観察シートからの評価も行う。

## ☑️ 対応能力・適性

- 2-1. 主体性
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

## 👤 講師略歴

外部講師

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]

## 達成目標

異文化を疑似体験し、異文化理解を深める

## 📖 講座の内容

任国へ赴任すると、これまでに体験したこともない様々な異文化に出会う。Bafa Bafa は、擬似的な国を作り上げ、その異文化に触れる機会を通じて、どのように感じるか、どのように行動するか認識することを目的としている。

## ■ グループ分け

後日、グループ分けを掲示するので、各自確認し、実施当日は指定教室に集合すること。掲示でリーダーとなっている人には、Bafa Bafa リーダー会議に出席してもらう。

## 【Bafa Bafa リーダー会議】

●月●日(●) ●:●~●:●

α国 ●会議室

β国 ●会議室



## 👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

## 📝 評価方法

社会的多様性理解単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また、観察シートからの評価も行う。

## ☑ 対応能力・適性

- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

## 👤 ファシリテーター

担当スタッフ

[担当スタッフ: ●●]

## 達成目標

## 異文化理解の意味と適応について学ぶ

## 📖 講座の内容

文化とは何だろうか。異文化を理解するとはどのようなことだろうか。

異文化・カルチャーショックを体験する「異文化体験シミュレーション Bafa Bafa」に現れた現象や行動、心の動きを解説する。また、その考察を踏まえ、文化が形成される過程に触れ、任地での生活や協力活動を円滑に行うために異文化をどのように理解し、自分を適応させたらよいかを学ぶ。

また、文化人類学的視点、言語学的視点など多岐にわたる方面からのアプローチにより、異文化の本質や異文化に対する心構えについて学ぶ。

## 1. Bafa Bafa とはどんなゲームだったのか

(1) ローカルルール、規則や文化を決める要素等

## 2. 「異文化理解」の規則

(1) 規則、武道、アフォードダンス等

## 3. 「異文化理解」から「他者理解」へ

- (1) 音としての言語、文としての言語  
(2) 異文化コミュニケーションの間違い

## 4. 言語、学術、普遍性

- (1) 異質なものと向き合うこと  
(2) 文化相対主義と人類学

## 5. 実践に生かすために

- (1) 異文化の中に立つ苦しみと快感  
(2) カルチャーショック  
(3) 逆カルチャーショック

## 👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

## 📝 評価方法

社会的多様性理解単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また、観察シートからの評価も行う。

## ☑️ 対応能力・適性

- 2-1. 主体性  
 2-2. 協調性  
 3-1. 発信力  
 3-2. マネージメント力  
 4-1. 異文化理解と適応  
 4-2. 日本(人)理解

## 👤 講師略歴

外部講師

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]



## 達成目標


異文化適応に関する事例から、実際に任地で起こりうる問題や葛藤への対処方法を学ぶ

 事例研究の内容


あるボランティアの活動事例をもとに、異文化の中で起こりうる問題や葛藤について、グループごとに討論する。

## ※参考講座

- ・「BafaBafa」
- ・「異文化適応概論」
- ・「コミュニケーションスキル」等

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

社会的多様性理解単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また、観察シートからの評価も行う。

 対応能力・適性

- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

 講師概略

JICA ボランティア OV  
 訓練所スタッフ

[担当スタッフ: ●●]

## 達成目標

紛争、災害、貧困の地の子供達に音楽と映像で近づき、国際協力とは何か、ボランティアとは何かについて迫る。

## ♪ 公演の内容

世界で起こっている様々な出来事を大画面のビデオ・スライドに映し出し、語りと曲で構成していく「映像と音楽のシンクロ」ステージ。

1994年内戦下のアフリカ・ソマリア、2004年のイラン南東部地震、2009年パレスチナ自治区ガザ・医療支援活動。そして2007年ガーナで出会ったJICAボランティア。

各所で出会った人々との触れ合い、自身の活動を通して国際協力とは何か、ボランティアとは何かについて迫る。

## 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

## ☑対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

## 👤講師略歴

外部講師

●● ●●氏

[担当スタッフ: ●●]

## 達成目標

検査結果を通じ、自身の性格・行動特性を知り、異文化適応に役立てる

## 📖 検査の内容

ボランティア自身の性格・行動特性を知ることができるので、派遣期間において異文化の中で困難に直面した場合、その解決の一助となる。

本検査の所要時間は、約 60 分程度。簡単な一桁の足し算を一定時間連続して行うものであり、検査受験者が意図的に結果を操作しにくく、対策を立てづらい。成人を対象とした本検査は公的機関でも多く採用されており、信頼性が高い。

## 👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

## 対応能力・適性

4-1. 異文化理解と適応

## 👤 講師略歴

講師無し

[担当スタッフ : ●●]

## D-4 社会的多様性理解・活用力 社会的多様性活用力

各科目の日は  
科目ごとに  
参照のこと

JICA ボランティアは慣れない環境下で、相手の目線に立って最善を尽くさなければならない。しかし、一度は途上国での不慣れた生活や受入側とのギャップ等に悩まされることがあるだろう。

この单元では、ボランティア経験者から任国でのボランティア活動、現地での生活の様子・文化等に関する情報を聞き、円滑な現地活動に役立つ気付きを得ることを目的としている。

また、学校生徒や所外活動先での交流を通じて、普段と違う環境での人々との関わり方やどのように活動を行い、どのように役立てるかを考えることも目的としている。

### 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解
- 5-1. 健康管理能力
- 5-2. 安全管理能力

### 担当スタッフ

●●

### ● 単元の構成

科目	備考
D-4-1. OV-DAY 任国事情	2 コマ
D-4-2. 学校交流	4 コマ
D-4-3. 所外活動オリエンテーション：(F. 各種オリエンテーション一覧表 参照) 任国や職種、生活班で固まらないようなグループに分かれる。	1 コマ
D-4-4. 所外活動①②・振り返り ・調査の実施(7 コマ×2 回) ・振り返り・とりまとめ (2 コマ)	16 コマ * 調査結果は、●月●日(●)までに●棟の廊下へ張り出すこと。
D-4-5. ボランティア活動の実際①②	4 コマ

## 達成目標


ボランティアの活動、現地の生活の様子等について  
 JICA ボランティア経験者から情報を得る

 講座の内容


任国での生活について、滞在経験のある講師から「生の情報」を聞く。講座は、基本的に JOCV 候補者、SV 候補者に分かれて実施する。事前に「質問書」をまとめ、質疑応答をしながら講義を進めていく。

## 1. 任国情報の例

- (1) 日常の食生活及び外食、飲料水、入手可能な嗜好品
- (2) 衣服について（正装・仕事着・普段着・喜ばれる格好）
- (3) 任国の風習・宗教・文化・習慣
- (4) 任国での人とのつきあい
- (5) 現地の治安状況・安全対策・危機管理として具体的に行っていること
- (6) ボランティアがよく利用する日常の交通手段・現地の交通事情・交通機関の利用料
- (7) 郵便、通信事情
- (8) 日用品等生活物資、家電製品等
- (9) その他留意事項（生活環境関連）
- (10) 語学について（上達方法、努力したこと、学校・教材等）

 履修要件


対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

社会的多様性理解単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解
- 5-1. 健康管理能力
- 5-2. 安全管理能力

 講師

帰国後間もない JICA ボランティア OV、調整員、関係者等

[担当スタッフ：●●]

達成目標

小学校または中学校との交流の機会を通じて開発教育・国際理解教育の意義を学ぶ

 交流の内容

候補者及び学校生徒ともに学校交流前にボランティアの派遣国について事前に学び、学校交流を通じて体験的に派遣国や開発教育・国際理解教育を学ぶことを目的とする。


例：

小学校低学年：ゲームなど体験的な活動を中心に交流を図る。

小学校高学年：知的な活動を取り入れる。

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

ボランティア基礎講座の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 2-1. 主体性
- 3-1. 発信力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

[担当スタッフ：●●]

達成目標

普段と違う環境でどのように人々と関わり合い、相手の役に立てるかについて実施を通じて考える

📖 講座の内容

【所外活動】

日時：①●月 ●日 (●)

②●月 ●日 (●)

場所：市内社会福祉施設・農家・児童福祉施設  
など

- ・所外活動先におけるニーズに合った協力活動の実施  
(例：老人介護補助、環境整備、レクリエーション、農作業等)
- ・1回目の所外活動において調査を実施するためのテーマをグループごとに決め、自主計画時間を利用し準備を行う。
- ・2回目の所外活動において、B-4 調査手法で習得した手法を用いてグループごとに簡易な調査を実施する。終了後は、自主計画時間を利用し、簡易調査の結果を取りまとめる。

【振り返り】

日時：●月●日(●) ●:●~●:●

場所：各指定場所

- ・様々な受入先での経験をグループ別に分かれて振り返り、任国での活動に活かせる気づきや学びを共有する。
- ・ボランティアに必要な資質を実践する機会とする。慣れない環境下で、相手の目線に立って最善を尽くす事にこの活動の意義がある。「振り返り」では一連の活動を振り返っての意見や反省を共有し、この活動の意義を深めることを目的とする。
- ・2回目の所外活動で実施した簡易調査について、準備から取りまとめまでの流れについての自己評価を行い、学びを共有する。

👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

📝 評価方法

調査手法単元の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。またグループ担当スタッフによる観察シートと成果品(所外活動結果)からも評価する。

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

👤 講師

講師は配置しないが、振り返りでは、生活班担当を配置する。

[担当スタッフ：●●]

## 達成目標

経験者から困難なことへの対処、心構え、コツなど  
 実際の様子を聞き、活動に対する意識を高める

 講座の内容

SV 経験者からボランティア活動を行う際に直面した困難及びその対処法、活動を円滑に行う上での心構え、コツなどを聞き、円滑な現地活動に役立つ気付きを得る。

## (1) 途上国の特徴 (ボランティアが一度は経験する悩み)


- 1) 活動に関連した途上国の特徴
- 2) 途上国が途上国である理由
- 3) 不便な生活とそれを乗り越えるエネルギー
- 4) 脆弱な組織、不確実な技術レベル
- 5) 価値観と行動特性の違い
- 6) 受け入れ側の現状認識の不十分さ
- 7) ボランティアと受け入れ側のギャップ

## (2) JICA ボランティアが直面する問題と問題解決の方法


- 1) 生活基盤の確立
- 2) 配属先での活動における問題と活動基盤の確立
- 3) 受け入れ先の問題の本質へのチャレンジ
- 4) 問題解決に対する事務局、事務所関係者の役割

## (3) JICA ボランティアの心得 (体験談を踏まえてのまとめ)

- 1) 生活基盤の確立
- 2) 配属先での活動における問題と活動基盤の確立

 履修要件


対象者	要件
JOCV	×
SV	○

 評価方法

社会的多様性理解・活用力の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応
- 4-2. 日本(人)理解

 講師略歴

シニアボランティア経験者



ボランティアの帰国後の社会還元はJICAボランティア事業の3本柱の一つである。本單元ではWBT『青年海外協力隊講座』による事前学習や、訓練期間中の講座においてボランティアが帰国後、現地での経験を日本社会に還元する手法や事例についての理解を深める。また、帰国後の進路及びキャリア形成、JICAの帰国ボランティアに対する支援制度の概略を理解する。

#### 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 3-2. マネージメント力

#### 担当スタッフ



#### ● 単元の構成

科目	備考
D-5-1. ボランティア体験と社会還元	WBT『青年海外協力隊講座』による事前学習
D-5-2. 社会還元	1 コマ
D-5-3. キャリアビジョンワークショップ	1 コマ

達成目標

帰国後の隊員たちは、それぞれの協力隊体験をどのように日本社会に活かすことができるのか実践例を通して考える

 講座の内容

2部構成。音声、画像、動画で学習する。

第1章


身近なボランティア経験の活かし方について

第2章

実践例の紹介を通した具体的な社会貢献活動について

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	○

 評価方法

社会的多様性理解・活用力の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 3-2. マネージメント力

[担当スタッフ:●●]

達成目標

JICA ボランティアに期待する帰国後の「社会還元」  
 について学ぶ

 **講座の内容**

帰国後の進路を考え自分自身にとっての活動経験の目標を明確化する。「社会還元」は JICA ボランティア事業の目標のひとつであり、JICA ボランティアは任国で得た経験や知見を社会一般に還元することが求められる。任国におけるどういった働きかけが自分の未来にどのようにつながるか、より有意義な活動をするために、帰国後のキャリアや社会還元、将来像を具体的にイメージしながら考える。

**1. 社会還元 (25分)**

社会還元活動とは

**2. 帰国後の進路 (25分)**

1) 進路の考え方と現状

参加前の経験がベース、2年間の成長と変化（働きかけの成果）、自己分析の意義と将来像

2) 協力隊活動によって経験から得られたことは？

できるようになりたいこと、できるようになったこと

3) 求人組織は協力隊をどのように評価し、帰国隊員に何を期待するか？

就職の際に何が評価されたのか

4) 経験を次につなげるため

任地にいる間にやっておけば良かったこと

**3. 自己分析&未来を描く ワーク (50分)**

1) 自己分析


弱みを克服し強みをさらに強化する

2) 未来を描く

帰国後のキャリアデザイン

 **履修要件**

対象者	要件
JOCV	☆ 指定者必修
SV	×

 **評価方法**

社会的多様性理解・活用力の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。


**対応能力・適性**

1-1. JICA ボランティアとしての使命感

1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解

2-1. 主体性

3-2. マネージメント力

 **講師要件**

現在の講師：

JICA 進路相談カウンセラー  
 および訓練所スタッフ

新規講師の要件：

異なる分野部門への就職  
 や進学した JICA ボランティア OV 数名

JICA ボランティア OV を採用した実績のある企業等の担当者など（スカイプや録画等での講義可）

[担当スタッフ：●●]

## 達成目標

JICA ボランティアに期待する帰国後の「社会還元」について学ぶ

## 📖 科目の内容

自身のキャリア設計について学ぶ

1. 「キャリアビジョンの確認のためのワークショップ」(希望者のみ)

(1) 内容: 協力隊参加を自分のキャリアの中でどう位置づけるか、自己分析を通して長期のキャリアビジョン構築

## 👤 履修要件

対象者	要件
JOCV	△
SV	×

## 👉 評価方法

社会的多様性理解・活用力の振り返りシートを記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。

## ☑ 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 1-2. 国際協力及びボランティア事業の理解
- 2-1. 主体性
- 3-2. マネージメント力

## 👤 講師要件

現在の講師：  
JICA 進路相談カウンセラー  
および訓練所スタッフ

新規講師の要件：  
異なる分野部門への就職や進学した JICA ボランティア OV 数名  
JICA ボランティア OV を採用した実績のある企業等の担当者など(スカイプや録音等での講義可)

[担当スタッフ: ●●]

## E. 生活班活動

各科目の日は  
科目ごとに  
参照のこと

派遣前訓練での共同生活、野外訓練等を通して、ボランティアに必要な能力・態度、日本の代表として相応しい振る舞い身に付けるとともに、水や電気等がない、若しくは不足している等の環境でも生活できる能力を身に付けることを目的とする。

### 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応

### 担当スタッフ



### ● 単元の構成・内容

科目	内容	備考
E-1. 自主計画時間を使った生活班ミーティング	課業外時間を利用して、各生活班で野外訓練や生活一般に関するミーティングを行う。	10 コマ (課業外)
E-2. 課業時間を使った野外訓練準備	各生活班、野外訓練リーダーを中心とし野外訓練に必要なことを事前に調査したり、献立等を決める。	2 コマ
E-3. 野外訓練オリエンテーション	※ F. 各種オリエンテーション一覧表 参照	1 コマ
E-4. 野外活動	※ 81 ページ 参照	14 コマ

## 達成目標

普段とは異なる生活環境下においても柔軟に適応する力と、共同作業を行う力を養う


 訓練の内容

野外訓練は、教室や講堂ではなく、屋外・訓練所外において2日間にわたって実施される。JICA ボランティアが派遣される多くの国々では、水や電気がない、もしくは慢性的に不足しているような状況が想定されることから、現地での生活の練習として、野外訓練中は水と電気の使用は、禁止もしくは制限される。野外訓練は、生活班単位で行動するため、各生活班より野外訓練リーダー1名を選出すること。きめられた食材が支給されるので、ニワトリや魚のさばき方の事前調査や献立などを決めておくとよい。また、班別対抗のアクティビティ(例：オリエンテーリング)も行う。


また、野外訓練中には生活班活動のほかに、自主研修講座を行う時間が確保されており、各自の得意分野などを活かした生活技法講座の開講と参加が可能である。講座の内容は、現地ですぐに活用できるような、容易に手に入るものや、持って行くことが可能なものを利用する、あるいは道具をあまり必要としないものが望ましい。自主研修講座については、自主研修講座を参照のこと。

日時	場所	内容
1 日目：●月●日 (●) 8:30- 9:00- 11:00- 13:30- 15:30- 19:00-21:00 23:00-	各会場  各会場  各会場	集合、開会式 自主研修講座① 野外炊飯(昼食) 自主研修講座② 野外炊飯(夕食) 自主研修講座③ 消灯・就寝
2 日目：●月●日 (●) 6:00- 9:00- -14:30 14:30-15:00 15:00-	訓練所	野外炊飯(朝食・昼食弁当) オリエンテーリング(例) 帰着確認 振り返り 閉講式、片づけ

※詳細内容は生活班ミーティングでの野外訓練リーダーからのアナウンス、また野外訓練オリエンテーションにて説明。

 履修要件

対象者	要件
JOCV	○
SV	×

 評価方法

生活班活動(野外訓練)の振り返りシートへ記入し、候補者自身が自分の学びを振り返る。また観察シートでの評価を行う

 対応能力・適性

- 1-1. JICA ボランティアとしての使命感
- 2-1. 主体性
- 2-2. 協調性
- 3-1. 発信力
- 3-2. マネージメント力
- 4-1. 異文化理解と適応

[担当スタッフ：●●]

F 各種オリエンテーション一覧表 (A～Eのオリエンテーションを含む)

※指定がない限り、全員受講してください

オリエンテーション名	内容	担当
A-2 語学オリエンテーション (全体)	・語学講師紹介 ・語学学習における心構え (中間試験時 8/10、および最終試験時 9/8 も実施)	語学訓練 スーパーバイザー
A-2 語学オリエンテーション (言語別)	・英語・西語・仏語以外の言語は各講師が実施 (英語・西語・仏語はクラス編成試験を実施)	各言語講師
B-3-1 コミュニケーション技法オリエンテーション	・コミュニケーション技法の構成についての説明、グループ分けを行う	講座担当
B-4-1 調査手法オリエンテーション	・調査手法の構成、フィールドワークの概要、説明	講師、講座担当
C-3-1 診療室オリエンテーション	・訓練中の健康管理について ・診療室利用、外部医療機関受診、訓練所顧問医について ・予防接種の種類・方法・注意事項	診療室スタッフ
C-3-2 派遣前健康管理オリエンテーション	・JICAの健康管理支援体制について ・出発までの準備 ・任国での健康管理	診療室スタッフ
D-4-3 所外活動オリエンテーション	・所外活動の構成、概要の説明、留意事項等 ・所外活動先の方々による心構えや内容説明	講座担当スタッフ
E-3 野外訓練オリエンテーション	・野外訓練の流れ、留意点について説明	講座担当スタッフ
F-2-1 派遣前訓練に関する合意書の説明	・派遣前訓練に係る合意書の説明・締結	〇〇 調査役
F-2-2① 生活オリエンテーション	・訓練所での生活における注意事項等 (7/12 も実施)	生活担当スタッフ
F-2-2② 派遣前訓練オリエンテーション	・訓練全体の構成、コンピテンシー、評価の視点等の説明	〇〇訓練総括
F-2-2③ 講座オリエンテーション	・各種講座の目的、内容説明	講座担当スタッフ
F-2-2④ 関係先紹介	・〇〇市の見どころや観光地の案内等 ・〇〇市民と訓練所の関わりについて ・〇〇市が行っている国際協力活動について	〇〇市役所/ 青年会議所
F-2-4 派遣前訓練評価会	・派遣前訓練の中間評価会及び修了時評価会を実施する	〇〇 調査役、班担当
F-3-1 派遣の仕組みと支援体制オリエンテーション	・派遣の流れ及び派遣中の支援体制等についての説明	〇〇調査役
F-3-2 処遇・制度【SV候補者】オリエンテーション	・各種制度、派遣前～帰国時の手続き等について	〇〇調査役
F-3-2 処遇・制度【JOCV候補者】オリエンテーション	※「JICA ボランティアハンドブック」を持参ください	〇〇調査役
F-3-3 福利厚生・共済会オリエンテーション	・JICA ボランティア全員が加入する共済会等、福利厚生 の概要 ※「新総合ハンドブック」(共済会)を持参ください (TV会議システム利用)	JICA 健康管理課 職員
F-3-4 ボランティアポータルシステムオリエンテーション	・ボランティアポータルシステムについての説明 (TV会議システム利用)	協力隊事務局 計画課 職員
F-3-5 ソーシャルメディア・非違防止オリエンテーション	・ソーシャルメディアの指摘利用に関するガイドライン、 広報媒体掲載、肖像権ガイドラインの説明及び過去の 失敗事例の紹介	〇〇調査役
F-4-1 公用旅券オリエンテーション	・公用旅券用のサイン取り付け	各担当旅行会社
F-4-2 赴任前オリエンテーション	・JICA ボランティアの処遇および制度の概要 ・合意書の説明 ・公用旅券の管理 ・赴任経費の支給に係る連絡 ・諸手続き及び留意事項	〇〇調査役
F-4-3 旅行会社オリエンテーション	・公用旅券、航空券の配布 ・出国当日の日程、集合場所等の詳細 ・飛行機持ち込みの荷物や預け荷物について	各担当旅行会社
F-4-4 派遣に関する合意書の説明	・派遣に関する合意書の説明	〇〇調査役
F-5-1 特別行事オリエンテーション【JOCV候補者のみ】	・皇太子御接見当日のリハーサル、注意事項等	〇〇 訓練総括
F-5-3 表敬訪問オリエンテーション	・訓練終了後に行う都道府県や市町村での表敬訪問の 説明	協力隊事務局 参加促進・進路支援課 職員
育てる会オリエンテーション	・「(社)協力隊を育てる会」の活動内容 および支援内 容の紹介	各担当職員
修了時オリエンテーション	・修了時の日程説明、アンケート配布等	生活担当スタッフ

訓練資料

語学関連実施要領

【JOCV】

平成 26 年度第 1 次隊

駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

JICA KOMAGANE TRAINING CENTER



## 目 次

語学について .....	1
1. 概要	
2. 授業について	
3. 語学クラスについて	
4. 各種教材および教室備品	
5. 自己学習	
6. 語学相談	
7. 語学関連行事について	
語学関連行事一覧	
Half Day Trip	
語学交流会	
各種表	
駒ヶ根訓練所学習言語一覧 .....	9
各言語挨拶一覧 .....	10
語学講師一覧 .....	11
語学教室配置図 .....	12
語学能力自己評価表 .....	13
場面別事例表 .....	14

# 語学訓練について

## 1. 概要

### (1) 目的

JICA ボランティアの派遣前訓練は、派遣国において現地の人とともに生活し、協力活動を実施する上で必要な知識・能力を身に付けることを目的とする。その一環として実施される派遣前語学訓練では、特に実践的コミュニケーションのための基礎的且つ機能的な知識、及び、その運用力を身につけることを目的とする。

### (2) 到達目標

派遣前語学訓練は、「JICA ボランティアとして活動する為に必要な実践力を備えたレベル」を目指すものとする。具体的には、P. 14 語学能力自己評価表のレベル5を目標とする。

なお、「JICA ボランティアとして活動するために最低限必要な能力レベル」として、レベル7を設定している。

### (3) 学習に当たっての姿勢

- ① 講師から与えられたものを消化することのみならず、積極的に自ら学ぶ姿勢を持つ。声に出してその日の復習、反復練習をすることが不可欠である。
- ② 語学学習は教室のみで実施されるものではなく、習ったことを日常的に使用することが上達の鍵となる。教室外でも、学習した表現・会話の積極的な使用を心掛ける。
- ③ クラスの雰囲気は、語学訓練の成否を左右する要因ともなり得るため、各自が雰囲気の向上に努める。
- ④ 既にある程度まで学習言語を習得しているボランティア候補者もクラスの一員として授業に参加し、さらなる語学力の向上に努める。

### (4) 評価

最終試験等の結果により、reading、writing、listening、speaking、の4技能を評価する。さらに、授業態度、語学自習への取り組み方や自己学習方法・姿勢の確立等を含め、各ボランティア候補者が目標に向かって如何に努力したかを加味し、総合的に評価する。

## 2. 授業について

### (1) 語学時間内訳

語学	時間
1. 語学（授業）	207
2. 語学（自習）	28
3. クラス編成テスト	2
4. 中間試験	5
5. 最終試験	5
合計	247

### (2) 服装

語学授業を受けるときは、一般課業用服装（T.P.Oを踏まえた服装）とする。

（※参照 訓練資料；生活関連実施要領 共同生活要領「5. 服装について」）

### (3) 授業の欠席

欠席する場合は、事前に所定の手続きを行う（スタッフルームにて、課業欠席届の提出。スタッフルームに来られない場合は、内線電話で連絡し、届け出は後で記入。）

（※参照 訓練資料；生活関連実施要領 共同生活要領「7. 課業欠席について」）

## 3. 語学クラスについて

### (1) ホームクラス編成

①各クラス6名程度を目途に、学習進捗に合わせたクラス編成を基本とする。

入所直後行なわれるクラス編成試験・インタビューにより、暫定クラスを決定する。その後、数日間の調整期間をおき、最終的なホームクラスを決定する。

なお、この調整期間に自分の理解度や語学能力に疑問・不安を感じる場合は、先ず担当講師へ連絡。また、必要に応じてLTSへ相談する。ただし、担当講師の教授法に対する不満や、クラスメートとの相性等は考慮しない。

また、複数クラスが編成されず1言語1クラスのみで、且つ学習進度がクラス内で一致しない場合は、お互いに協力し合って学習を進める。

②各学習言語のクラス編成方法は次の通り。クラス分け表は4月12日（土）の朝6:30迄には2階語学関連ホワイトボードに掲示する。

8:45(1限目の語学授業開始)までに必ず各自で確認すること。

- ・英語：クラス編成テスト（EPテスト：English Placement Test）の結果を基に仮ホームクラスを編成。授業開始後、講師の判断等によりクラス調整する。
- ・西語：事前学習の成果を確認する簡単な筆記試験と語学講師とのインタビューにより仮クラスを編成。授業開始後、講師の判断等によりクラス調整する。
- ・仏語：事前学習の成果を確認する簡単な筆記試験と語学講師とのインタビューにより仮クラスを編成。授業開始後、講師の判断等によりクラス調整する。

- ・ネパール語、シンハラ語、ベンガル語、ロシア語、ウズベク語、キルギス語：  
事前学習の確認テストを実施し、言語別に各講師から学習言語のオリエンテーションを行う。

## (2) テクニカルクラス

英語、西語及び仏語に於いては、基礎項目を学習するホームクラスとは別に、各ボランティア候補者の専門分野に関する授業としてテクニカルクラスを実施する。

なお、他の言語に関しては、クラスの進捗状況を考慮し、各担当講師の判断に委ねる。

- ・英語：EP テストの結果と派遣形態・職種を基にホームクラスとは別に編成。EP テストの結果によっては、テクニカルクラスを編成せず、ホームクラス内でプレゼンテーション等を実施する場合もある。
- ・西語：中間試験終了後、各ホームクラスに於いて、ボランティア候補者の専門分野に関する授業（タジュール）を実施する。
- ・仏語：訓練後半に、派遣職種とクラスの進捗状況を基にテクニカルクラスを編成し、各ボランティア候補者の専門分野に関する授業（アトリエ）を実施する。  
なお、クラスの進捗によっては、テクニカルクラスを編成しない場合もある。

## (3) 語学クラスリーダー

各ホームクラスから1名リーダーを選出。別途掲示を参照。主に教室備品の確認と語学関係の行事に関する連絡・調整を行う。

# 4. 各種教材および教室備品について

## (1) 教材

- ①授業で使用する基本的な教材は、訓練所と語学講師が準備する。
- ②授業でよく使用する教材や自己学習等で使用する副教材は、講師に相談のうえ各自で購入（訓練所にて書籍の出張販売あり。※参照 訓練資料；生活関連実施要領 訓練所施設内の利用について「(8)業者の出張販売等について」）。  
ただし、訓練開始時は購入が間に合わないため、一部の市販教材などは貸与とする。  
貸与された教材は訓練終了前に返却するため、書き込みは禁止。JICA オリジナル教科書は返却の必要はない。貸与教材か否かは講師に確認。
- ③同じ学習言語であっても、全クラスが同じ教材を使用するとは限らない。担当講師が指導に合った教材を選出する。
- ④図書資料室にも語学教材、英語雑誌、その他語学学習関係書籍等がある。